



Visage Pass

顔認証端末 説明書

株式会社デジタルピア



免責事項

このマニュアルについて

本マニュアルの内容はすべて株式会社デジタルピア(以下、当社)が所有する著作権に保護されています。本マニュアルの内容の一部または全部を無断で転載および複製しないでください。本マニュアルの内容は将来予告なく変更することがあります。本マニュアルに記載の URL、および URL に掲載されている内容は、参照時には変更されている可能性があります。当社は、本マニュアルの技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。当社は、本マニュアルの内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。本製品と本マニュアルの使用および管理については、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。

商標について

本マニュアルに記載されている商標およびロゴは、それぞれの所有者の所有物です。

法的免責事項

適用される法規により許容される最大範囲内で、本マニュアルおよび説明される製品は、そのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアと共に、「現状のまま」および「すべての故障およびエラーを含め」提供されます。当社は、明示または黙示を問わず、特定の目的に対する商品性、満足できる品質、または適合性を含め、いかなる保証も行いません。お客様による製品の使用は、お客様自身のリスクに基づきます。いかなる場合においても、当社は、契約違反、不法行為(過失を含む)、製品責任、またはその他製品の使用に関連して、事業利益の損失、事業の中断、またはデータの損失、システムの停止、または文書の損失に対する損害など、特別損害、派生的損害、付随的損害、または間接的損害について、たとえ当社が当該損害または損失の可能性を通知されていたとしても、貴社に対して一切責任を負いません。

お客様は、インターネットへの接続が固有のセキュリティ上のリスクを提供するものであり、当社はインターネット・セキュリティ上のリスクに起因する異常な操作、プライバシー保護またはその他の損害について一切責任を負わないことを確認するものとします。但し、弊社は、必要に応じて適時に技術サポートを提供します。

お客様は、適用されるすべての法律に準拠して本製品を使用することに同意し、お客様の使用が適用される法律に準拠していることを確認する責任を単独で負うものとします。特に、お客様は、本製品を、第三者の権利(著作権、知的所有権、データ保護権およびその他のプライバシー権を含みますが、これらに限定されません)を侵害しない方法、マナーで使用する責任を負います。

お客様は、本製品を、禁止された最終用途、例えば、大量破壊の武器の開発または生産、化学または生物学の武器の開発または生産、核兵器に関連する内容、または人権の不正使用のサポートなどには利用しないものとします。

本マニュアルと適用される法律との間に矛盾がある場合は、法律が優先されます。



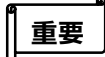
データ保護

本製品の利用により、個人情報が収集、保存、処理されます。本製品を譲渡、廃棄する場合は「7 Visage Pass 顔認証端末の譲渡と廃棄」を参照し、データ消去の操作を行ってください。

個人情報の取扱いについて、関連法令や規制に従って収集、保存、処理、および転送することをお勧めします。



記号表記について

本マニュアルで使用されている記号について、次のように定義します。

記号	説明
 危険	人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。
 注意	火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。 データの損失、性能の劣化、または予期しない結果を招く可能性のあることを示します。
 重要	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。

安全上の注意

本製品を安全にお使いいただくため、ここで説明する注意事項をよく読んでください。ご理解いただき安全にご活用ください。

 危険	 注意
人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。	火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。データの損失、性能の劣化、または予期しない結果を招く可能性のあることを示します。

危険

- 人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない。

本製品は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込み、およびこれらの機器の制御などを意図していません。これら設備、機器、または制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても弊社はいかなる責任も負いません。

- 煙や異臭、異音が生じたまま使用しない。

万一、煙、異臭、異音などが生じたときは、ただちに電源を落としてください。

その後、お買い求めの販売店または弊社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。

Visage Pass 顔認証端末 説明書

- 本製品を水や液体がかかる場所で使用しない。本製品を水にぬらすと感電や発火のおそれがあります。
- 本製品を火気に近づけない。想定外の高温になると本製品が発火するおそれがあります。
- 本製品を分解・修理・改造しない。感電や火災のおそれがあります。
- 本製品の指定された場所以外には触らない。感電や火傷などの傷害のおそれがあります。
- 本製品をぬれた手で触らない。感電するおそれがあります。
- 本製品を設置環境が適していない場所には設置しない。

本製品がその他のシステムに悪影響をおよぼすばかりでなく、火災やけがなどをするおそれがあります。設置場所に関する詳細な説明は本マニュアルを読むか、弊社にお問い合わせください。

注意

- 本製品を落としたり、衝撃を与えたり、高電磁放射にさらさない。
故障の原因になる場合があります。
- 本製品の、認証率は 100%ではありません。
より高いセキュリティレベルが必要な場合は複数の認証手段を利用してください。
- 顔の特徴を本製品が十分に認識しない場合、本製品の顔認証をご利用いただけない場合があります。
顔情報が登録できない場合は、パスコード認証など代替手段を利用してください。

目次

図目次.....	4
表目次.....	5
1. 概要.....	6
1.1. 機能一覧.....	6
1.2. 設置環境.....	6
2. システムの起動と停止.....	7
2.1. システムの起動.....	7
2.2. システムの停止.....	7
2.3. 定期自動再起動.....	7
3. 操作.....	8
3.1. 顔認証.....	8
3.2. パスコード認証.....	8
3.3. 顔登録.....	9
3.4. 顔情報の削除.....	11
3.5. 管理者画面.....	13
3.5.1. 再起動.....	14
3.5.2. 管理者用 パスコードの変更.....	14
3.5.3. 登録用 パスコードの変更.....	15
3.5.4. 認証用 パスコードの変更.....	15
3.5.5. 2要素 パスコードの変更.....	15
3.5.6. ユーザーリスト.....	16
3.5.7. 解錠履歴.....	16
3.5.8. 各パラメーター変更.....	17
3.5.9. 端末設定モード.....	18
3.6. 時刻設定.....	18
3.7. QRコードによる操作.....	19
3.7.1. QRコードによる、再起動.....	19

3.7.2.	QRコードによる、管理者用 パスコードの変更	19
3.7.3.	QRコードによる、登録用 パスコードの変更	19
3.7.4.	QRコードによる、認証用 パスコードの変更	19
3.7.5.	QRコードによる、2要素 パスコードの変更	19
3.7.6.	QRコードによる、ユーザーリストの確認	20
3.7.7.	QRコードによる、解錠履歴の確認	20
3.7.8.	QRコードによる、各パラメーター変更.....	20
3.7.9.	QRコードによる、端末設定モードへの移動.....	20
3.7.10.	QRコードによる、パスコード入力	20
4.	表示.....	21
4.1.	ステータスバー	21
4.2.	顔認証／顔画像追加時のガイドメッセージ	22
4.3.	情報メッセージ	23
4.4.	エラーメッセージ	27
5.	撮影条件について.....	31
5.1.	撮影全般について.....	31
5.2.	撮影時の顔の部分について.....	31
5.3.	撮影時に眼鏡をかける場合	31
6.	QRコードの作成	32
6.1.	名簿を CSV ファイルに保存	32
6.2.	名簿の編集	35
6.3.	顔登録、ユーザー削除 QRコードの画像出力.....	39
6.4.	顔登録、ユーザー削除 QRコードの印刷	41
6.5.	コマンド QRコードの画像出力	43
6.6.	コマンド QRコードの印刷.....	46
7.	VISAGE PASS 顔認証端末の譲渡と廃棄	47
8.	QRコードコマンド一覧.....	48
9.	パラメーター	51
10.	QRコード作成ツールのインストール.....	53

10.1. .NET CORE 3.1 のインストール.....	53
10.2. アプリケーションのインストール.....	55
設置工事関係者向け説明	56
11. 関連機器との接続.....	57
11.1. 接続例（サーバーと連携して利用する場合）	57
11.2. 接続例（親子 2 台で連携して利用する場合）	58
11.3. 接続例（1 台構成で利用する場合）	59
11.4. VISAGE PASS 顔認証端末の接続端子	60
12. 端末設置手順	61
12.1. 設置前準備	61
12.2. 端末設定	62
12.2.1. サーバー連携の端末設定項目	62
12.2.2. 親子 2 台連携の端末設定項目.....	63
12.2.3. 単体動作の端末設定項目	64
12.3. サーバー連携の端末設定.....	65
12.4. 親子 2 台連携 親機の端末設定	70
12.5. 親子 2 台連携 子機の端末設定	73
12.6. 単体動作の端末設定	76

目次

図 1 顔認証	8
図 2 パスコード入力	8
図 3 QR コード認識.....	9
図 4 パスコード入力	9
図 5 写真撮影画面.....	10
図 6 確認画面	10
図 7 登録画面(正常)	10
図 8 QR コード認識.....	11
図 9 パスコード入力	11
図 10 確認画面.....	12
図 11 削除完了.....	12
図 12 管理画面.....	13
図 13 再起動	14
図 14 管理者パスコードの変更	14
図 15 登録用パスコードの変更	15
図 16 認証パスコードの変更	15
図 17 認証パスコードの変更	15
図 18 ユーザーリスト.....	16
図 19 解錠履歴.....	16
図 20 保守画面.....	17
図 21 各パラメーター画面	17
図 22 端末設定モード.....	18
図 23 時刻設定.....	18
図 24 ステータスバー	21
図 25 接続例 (Visage Pass 顔認証端末 サーバー連携構成)	57
図 26 接続例 (Visage Pass 顔認証端末 2 台構成)	58
図 27 接続例 (Visage Pass 顔認証端末 1 台構成)	59

表目次

表 1 機能一覧	6
表 2 ガイドメッセージ一覧	22
表 3 情報メッセージ一覧	23
表 4 エラーメッセージ一覧	27
表 5 QR コード コマンド	48
表 6 パラメーター 一覧	51
表 7 認証しきい値の目安	52
表 8 画像サイズと距離の目安	52
表 9 配線材 (Visage Pass 顔認証端末サーバー連携構成)	57
表 10 配線材 (Visage Pass 顔認証端末 2 台構成)	58
表 11 配線材 (Visage Pass 顔認証端末 1 台構成)	59
表 12 設定が必要な項目	61
表 13 設定項目表 (サーバー連携)	62
表 14 設定項目表 (親子 2 台連携)	63
表 15 設定項目表 (単体動作)	64

1. 概要

Visage Pass 顔認証端末は、設備への入退場などにおいて顔認識によるアクセス制御を行うための端末です。

1.1. 機能一覧

表 1 機能一覧

機能	仕様
利用 OS	Linux OS
顔認証	JCV 社製 AI Camera 利用
LCD 表示	5 インチ（解像度：800 x 480）、タッチスクリーン
認証方法	顔認証、パスコード
認識モード	1 対 N 認証
登録者数	最大 1,000 名
顔登録数	最大 5,000 枚（一人あたり 5 枚まで登録可）
登録データ保存場所	サーバー連携動作時は Visage Pass Web サービスに保持 親子連携動作時は、顔認証端末（親機）内の不揮発性メモリに保持 単体動作時は、顔認証端末内の不揮発性メモリに保持
認証距離	0.5m ~ 1.5m
認証速度	0.4 秒（設置環境により変動）
認証に必要な照度	20lux 以上
生体検知	サポート
電源	DC24V, 2A（別途、24V 電源をご用意ください）
動作湿度	10% ~ 90%（結露無いこと）
動作温度	-10℃ ~ +40℃
対応言語	日本語

1.2. 設置環境

- 屋内に設置してください。
- 顔を認識できない場所への設置は避けてください。

例) 直射日光などがあたる場所

撮影背景が極端に明るい場所

真っ暗な場所

撮影背景に人の写真や QRコードがある場所

など

2. システムの起動と停止

顔認証端末では、以下の手順でシステムの起動と停止を行います。

2.1. システムの起動

顔認証端末の電源を ON にします。

電源が ON になると、システムが起動し数分で使用できる状態になります。

2.2. システムの停止

顔認証を行う画面で、そのまま電源を切ってください。

システムを停止する場合、設定操作や顔情報の登録/顔情報の削除などの操作と同時に停止操作を行わないでください。

2.3. 定期自動再起動

顔認証端末は、安定的な動作を目的として、毎日定期的に自動再起動を行います。自動再起動は、顔認証端末の内部時刻において午前 2:00 に実施されます。再起動中は認証動作が行えません。再起動の完了をお待ちください。

3. 操作

以下に Visage Pass 顔認証端末の操作方法について説明します。

なお、顔情報の登録、顔情報の削除の操作には、お客様にて作成いただいた QR コードを使用します。QR コードの作成方法については「6 QR コードの作成」を参照してください。

3.1. 顔認証

以下の手順にて、顔認証による解錠を行うことができます。

手順 ①

Visage Pass 顔認証端末に向かって正面に顔が写るように移動してください。

手順 ②

認証に適した状態になると、認証処理を行います。顔が登録されている場合「PASS」と表示し、解錠を行います。認証できない場合は、その理由が表示されます。「4.2 顔認証／顔画像追加時のガイドメッセージ」を参考に対処してください。

なお、顔認証を行うには事前に顔登録を行う必要があります。顔登録の手順については「3.3 顔登録」を参照してください。

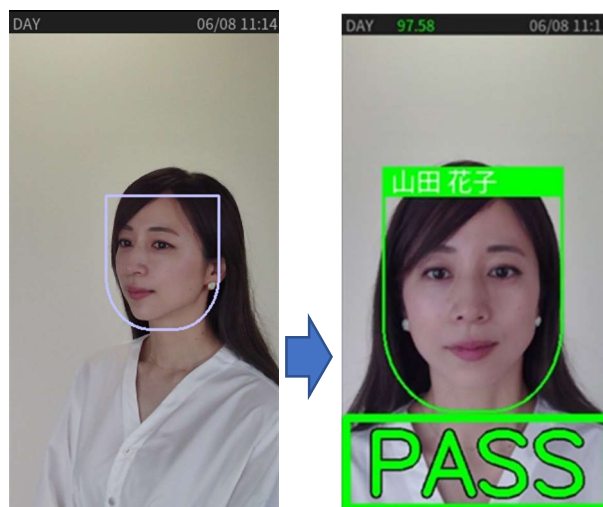


図 1 顔認証

3.2. パスコード認証

認証パスコードを設定すると、認証パスコードによる解錠を行う事ができます。

顔認証画面において、画面をタップする、もしくは「数字」の QR コードを認識させることで、認証パスコードの入力画面が表示されますので、認証パスコードを入力します。パスコードが一致すると解錠を行います。

なお、QR コードでの操作については、「3.7.10. QR コードによる、パスコード入力」を参照してください。

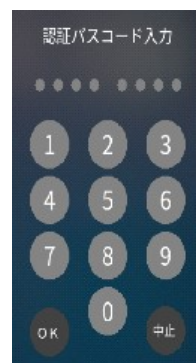


図 2 パスコード入力

3.3. 顔登録

以下の手順にて、顔情報を Visage Pass 顔認証端末に登録することができます。

なお、端末の動作設定によって手順に違いがあります。サーバー連携動作の場合は Visage Pass 顔認証端末での顔登録に先立って Visage Pass web サービスにおいてユーザー登録を行う必要があります。Visage Pass web サービス説明書を参照してください。また、親子 2 台連携動作の場合は親機端末にて顔登録をおこなってください。親機端末に顔登録すると、親機側、子機側の両方で顔認証による解錠ができるようになります。単体動作の場合は、該当端末に顔登録をおこなってください。

顔登録には以下の QR コードが必要となります。

- ・顔登録（または顔画像追加）の QR コード
- ・登録用パスコードを設定している場合はパスコード入力用の QR コード（操作は「3.7.10. QR コードによる、パスコード入力」参照）

手順 ①

Visage Pass 顔認証端末は、顔情報として、目、鼻、口、眉を顔の特徴点として記憶します。これらが映るように身だしなみを整えてください。マスクや髪の毛（濃い髭）、眼鏡などで顔が隠れないようにしてください。顔に隠れた部分があると、登録できない場合があります。

撮影の条件については「5 撮影条件について」を参照ください。

手順 ②

登録モードの QR コードを Visage Pass 顔認証端末にかざします。QR コードが認識されると、登録用パスコードが設定されている場合は登録用パスコード入力画面になります。登録用パスコードが設定されていない場合は手順④に進みます。

備考) QR コードは、Visage Pass 顔認証端末に近づけすぎないで下さい。概ね 50cm 以上離れた位置で認識しやすくなるように調整されています。

手順 ③

表示されるボタンをタップしてパスコードを入力する、もしくは QR コードをかざしてパスコードを入力します。



注意

6 歳未満のお子様は、Visage Pass 顔認証端末の顔認証をご利用されないようにお願いします。Visage Pass 顔認証端末が顔の特徴を十分に認識しない場合があります。



図 3 QR コード認識

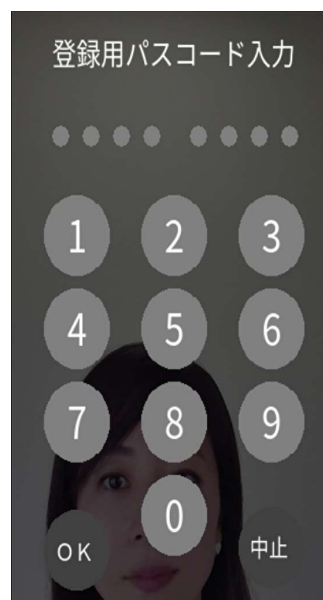


図 4 パスコード入力

手順 ④

撮影が始まると、カウントダウン後に撮影されます。目、鼻、口、眉が十分に認識できると、「はい、そのまま」と表示されますので、撮影が終了するまで動かないください。



図 5 写真撮影画面

手順 ⑤

撮影できると、確認画面が表示されますので、カウントダウンが終了するまでに、顔画像追加の QR コードを再度かざします。QR コードが認識されると登録されます。カウントダウン時間内に QR コードが認識できない場合、登録がキャンセルされます。



図 6 確認画面

手順 ⑥

QR コードが認識され正常に登録できると、「登録しました！」と表示され、顔情報が登録されます。



図 7 登録画面(正常)

3.4. 顔情報の削除

以下の手順にて、顔情報を Visage Pass 顔認証端末からユーザーを削除することができます。

なお、端末の動作設定によって手順に違いがあります。サーバー連携動作の場合は Visage Pass 顔認証端末からユーザーを削除することで、Visage Pass web サービスからもユーザー削除されます。また、親子 2 台連携動作の場合は親機端末にてユーザー削除をおこなうことで、親機側、子機側の両方にてユーザーが削除されます。単体動作の場合は、該当端末にてユーザー削除をおこないます。

ユーザー削除には以下の QR コードが必要となります。

- ・ユーザー削除の QR コード
- ・登録用パスコードを設定している場合はパスコード入力用の QR コード（操作は「3.7.10. QR コードによる、パスコード入力」参照）

手順 ①

ユーザー削除の QR コードを Visage Pass 顔認証端末にかざします。QR コードが認識されると、登録用パスコードが設定されている場合は登録用パスコード入力画面になります。登録用パスコードが設定されていない場合は手順③に進みます。

備考) QR コードは、Visage Pass 顔認証端末に近づけすぎないで下さい。概ね 50cm 以上離れた位置で認識しやすくなるように調整されています。

手順 ②

表示されるボタンをタップしてパスコードを入力する、もしくは各ボタンに対応するボタン QR コードをかざしてパスコードを入力します。



図 8 QR コード認識

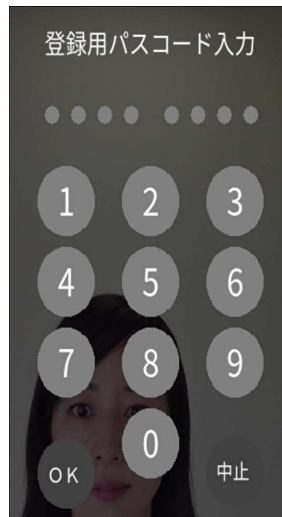


図 9 パスコード入力

手順 ③

カウントダウンが終了するまでに、削除モードの QR コードを再度かざします。QR コードが認識されると顔情報が削除されます。

カウントダウン時間内に QR コードが認識できない場合は削除がキャンセルされます。



図 10 確認画面

手順 ④

QR コードが認識され正常に削除できると、

「削除しました」と表示されます。



図 11 削除完了

3.5. 管理者画面

Visage Pass 顔認証端末の設定変更や各種管理操作を行うには、管理者画面を利用します。管理者画面を表示するには、管理者画面 QR コードを Visage Pass 顔認証端末にかざし認識させます。管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードを入力することで、管理者画面が表示されます。

備考) QR コードは、Visage Pass 顔認証端末に近づけすぎないで下さい。Visage Pass 顔認証端末は概ね 50cm 以上離れた位置の QR コードを認識しやすくなるように調整されています。

管理者画面では、Visage Pass 顔認証端末のシリアル番号、IP アドレスを確認することができるほか、各ボタンをタップすることで、端末の再起動、管理者パスワード、登録用パスワード、認証パスワード、および 2 要素パスワードの変更、ユーザーリストの参照や解錠履歴の参照ができます。

管理者パスワードを設定すると、管理者の操作を行う場合にパスワード入力が必要されるようになります。登録用パスワードを設定すると、顔画像追加やユーザー削除の操作を行う場合にパスワード入力が必要されるようになります。認証パスワードを設定すると、パスワードの入力により解錠することが可能となります。2 要素パスワードを設定すると、認証 PASS するためには顔認証に加え、正しい 2 要素パスワードの入力を要求するようになります。また、管理者、登録用、認証の各パスワード入力において、該当パスワードに入力に続いて 2 要素パスワードの入力が必要となります。

なお、出荷時のパスワードはすべて「1 2 3 4」に設定されています。使い始めるときに、お客様のパスワードへの更新をお願いします。

管理者パスワードは忘れないように管理をお願いします。管理者パスワードを忘れてしまった場合は、ご購入いただいた販売店にお問い合わせください。管理者パスワード解除の対処をご用意することができます。

保守画面は、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。意図しない設定変更を行うと期待しない動作になる場合があります。

なお、管理者画面において「戻る」をタップするか、30 秒以上操作が無い場合、元の画面に戻ります。



図 12 管理画面



注意

保守画面の設定変更は、認証精度に影響します。特段の理由がない限り、出荷時の設定から変更しないでください。

3.5.1. 再起動

管理者画面の「再起動」ボタンをタップすることで、Visage Pass 顔認証端末は再起動します。



図 13 再起動

3.5.2. 管理者用 パスコードの変更

管理者画面のパスワードの変更の「管理者」ボタンをタップすることで、管理者パスワードを変更することができます。8桁以内の数字を設定してください。工場出荷時の初期パスワードは「1234」です。なお、「00000000」を設定すると、管理者画面に入るときにパスワード入力や、コマンド QR コード使用時のパスワード入力を省略する設定になります。管理者パスワードは、それぞれの Visage Pass 顔認証端末ごとに個別に設定する必要があります。



図 14 管理者パスワードの変更

3.5.3. 登録用 パスコードの変更

管理者画面のパスコードの変更の「登録用」ボタンをタップすることで、顔情報の登録、削除を行うときの登録用パスコードを変更することができます。操作は管理者パスコードの変更と同様です。8桁以内の数字を設定してください。工場出荷時の初期パスコードは「1234」です。「00000000」を設定すると、顔情報を登録、削除するときのパスコード入力を省略する設定になります。

管理者パスコードは、それぞれの Visage Pass 顔認証端末ごとに個別に設定する必要があります。



図 15 登録用パスコードの変更

3.5.4. 認証用 パスコードの変更

管理者画面のパスコードの変更の「認証」ボタンをタップすることで、パスコード認証を行うための認証パスコードを変更することができます。操作は管理者パスコードの変更と同様です。8桁以内の数字を設定してください。工場出荷時の初期パスコードは「1234」です。「00000000」を設定すると、パスコード認証が利用できない状態になります。

認証パスコードは、それぞれの Visage Pass 顔認証端末ごとに個別に設定する必要があります。

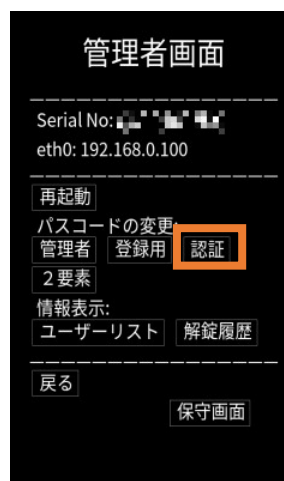


図 16 認証パスコードの変更

3.5.5. 2要素 パスコードの変更

管理者画面のパスコードの変更の「2要素」ボタンをタップすることで、2要素パスコードを変更することができます。操作は管理者パスコードの変更と同様です。8桁以内の数字を設定してください。工場出荷時の初期パスコードは「1234」です。「00000000」に変更すると、2要素パスコードは無効化されます。

2要素パスコードを設定すると、認証 PASS するためには顔認証に加え、正しい2要素パスコードの入力を要求するようになります。また、管理者、登録用、認証の各パスコード入力において、該当パスコードに入力に続いて2要素パスコードの入力が必要となります。

2要素パスコードはそれぞれの Visage Pass 顔認証端末に個別に設定します。また、端末あたり1種類の設定となります。

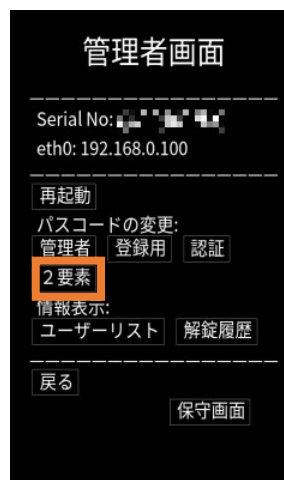


図 17 認証パスコードの変更

3.5.6. ユーザーリスト

管理者画面の「ユーザーリスト」ボタンをタップすることで、ユーザー一覧を表示して、Visage Pass 顔認証端末に登録されているユーザーを確認することができます。ユーザー一覧の表示中の画面タップ、QRコード認識により、ユーザー一覧のページを送ることができます。また、表示から30秒以上操作しない、もしくはユーザー一覧の最後のページでQRコードを認識させることで、管理者画面に戻ります。

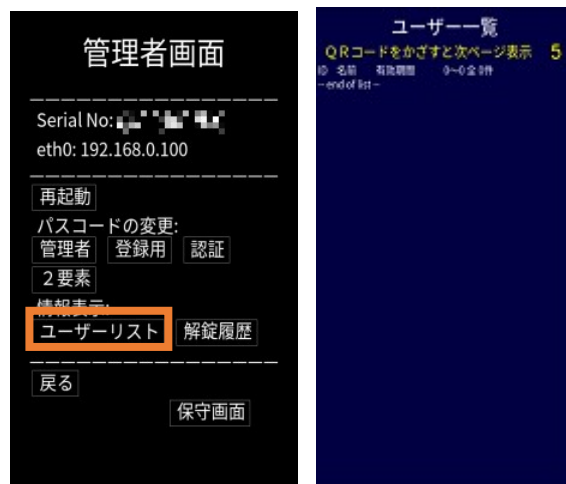


図 18 ユーザーリスト

3.5.7. 解錠履歴

管理者画面の「解錠履歴」ボタンをタップすることで、製品起動以降の解錠された時刻と解錠要因の履歴を確認することができます。解錠履歴の表示中の画面タップ、QRコード認識により、ページを送ることができます。また、表示から30秒以上操作をしない、もしくは解錠履歴の最後のページでQRコードを認識させることで、管理者画面に戻ります。



注意

この画面の解錠履歴は端末の再起動によりクリアされます。この画面では、Visage Pass 顔認証端末の起動/再起動 以前の解錠履歴は確認できません。永続的に解錠履歴を残すにはサーバー連携動作をご利用ください。

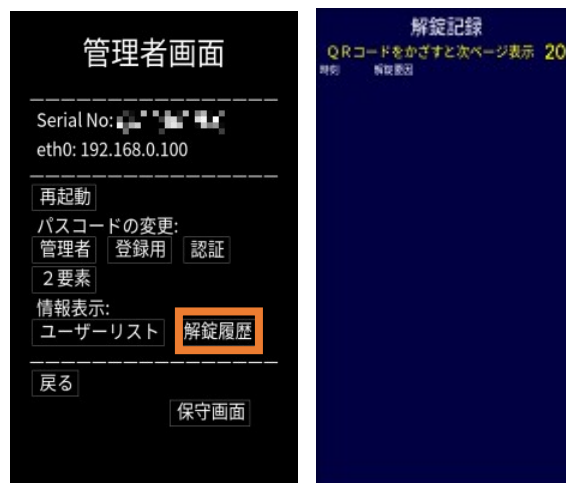


図 19 解錠履歴

3.5.8. 各パラメーター変更

管理者画面の「保守画面」ボタンをタップすることで、各パラメーターを設定することができます。各パラメーターの変更は、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。意図しない設定変更を行うと期待しない動作になる場合があります。パラメーターの詳細については、「9 パラメーター」を参照してください。



注意

パラメーターの設定変更は、認証精度に影響します。特段の理由がない限り、出荷時の設定から変更しないでください。

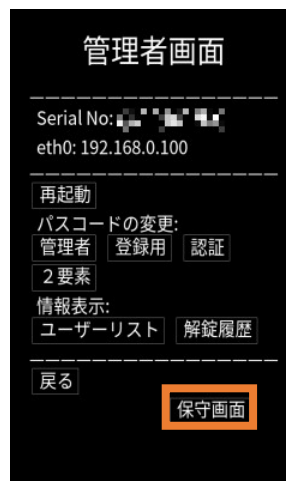


図 20 保守画面

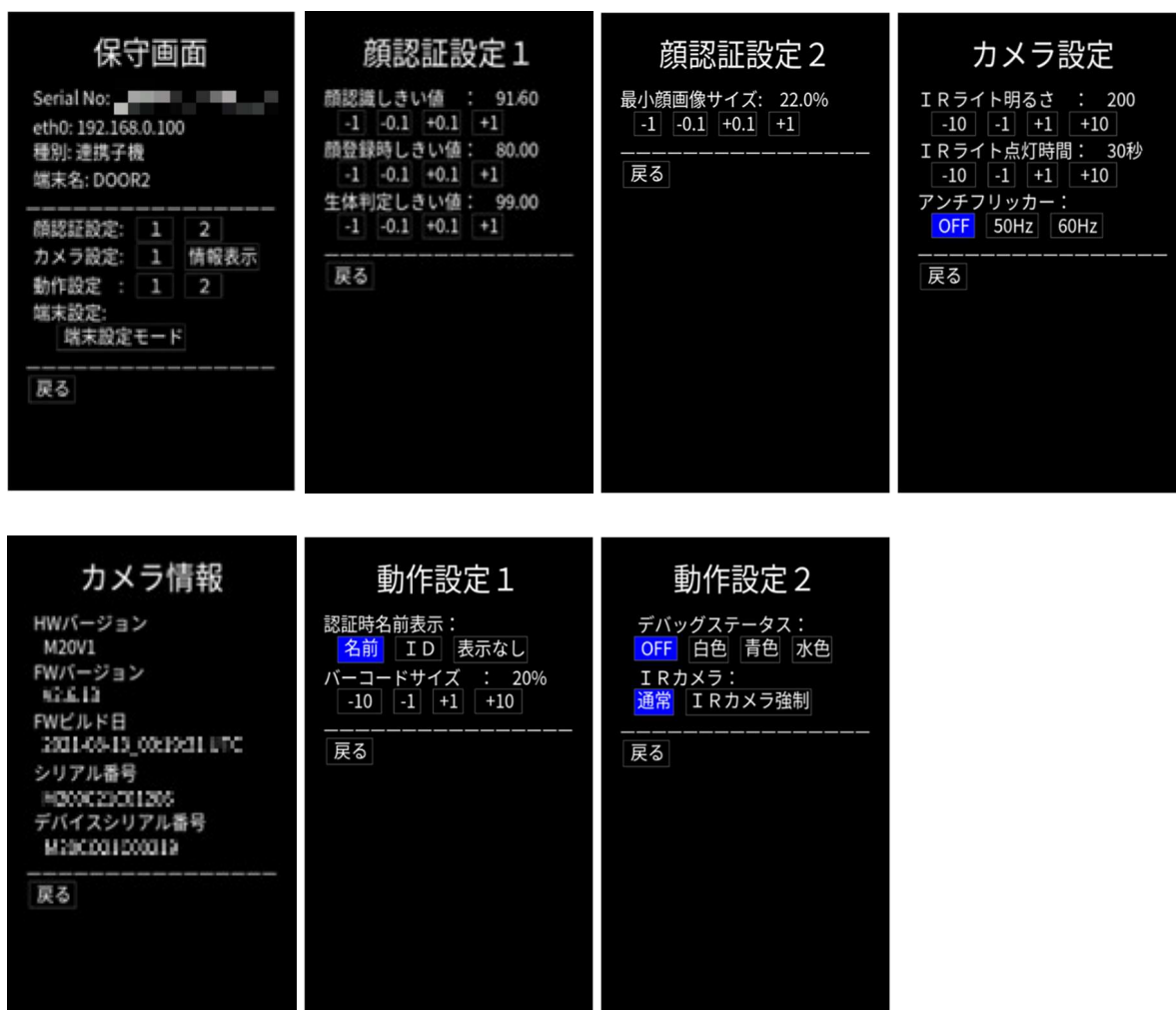


図 21 各パラメーター画面

3.5.9. 端末設定モード

管理者画面の「保守画面」ボタンをタップし、「端末設定モード」ボタンをタップすることで端末設定モードに移動することができます。

端末設定モードでの設定変更は、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。意図しない設定変更を行うと期待しない動作になる場合があります。端末設定モードでの操作については「12 端末設置手順」を参照してください。

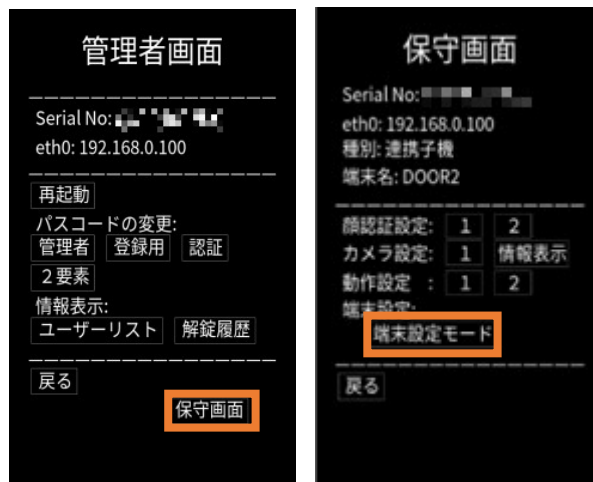


図 22 端末設定モード

3.6. 時刻設定

Visage Pass 顔認証端末を単体もしくは親子連携で動作させる場合は時刻調節が必要となる場合があります。ステータスバーより Visage Pass 顔認証端末内部の日時が表示されていますので、表示されている時刻と現在時刻にずれがある場合、次の手順で時刻設定おこないます。

時刻設定 QR コードを Visage Pass 顔認証端末にかざします。管理者パスコードが設定されている場合は、QR コードが認識されると管理者パスコードの入力を求められますので、管理者パスコードを入力してください。

これにより、「時刻設定」画面が表示されますので、現在の日時を入、表示されるボタンをタップする、もしくは設定時刻の QR コードをかざしてパスコードを入力します。OK ボタンをタップすることで、指定された時刻をセットし再起動を行います。再起動が完了することで、時刻設定が完了します。

なお、Visage Pass 顔認証端末をサーバーと連携して動作させている場合、サーバーの時刻に Visage Pass 顔認証端末は同期します。このため Visage Pass 顔認証端末の時刻設定は行う必要がありません。

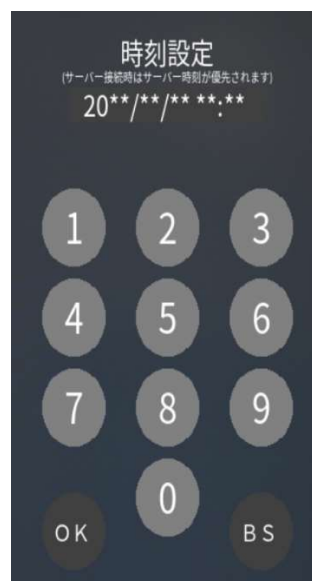


図 23 時刻設定

3.7. QRコードによる操作

Visage Pass 顔認証端末の各種操作を行うために、コマンド QRコードを使用することができます。サポートするコマンドの詳細については、「9 パラメーター」を参照してください。コマンド QRコードは、QRコード作成ツールにて作成することができます。QRコード作成ツールの操作手順は「6 QRコードの作成」を参照してください。

備考) QRコードは、Visage Pass 顔認証端末に近づけすぎないで下さい。Visage Pass 顔認証端末は概ね 50cm 以上離れた位置の QRコードを認識しやすくなるように調整されています。

以下に、代表的なコマンド QRコードについて説明します。

3.7.1. QRコードによる、再起動

再起動 QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし、QRコードを認識させることで、Visage Pass 顔認証端末は再起動します。

3.7.2. QRコードによる、管理者用 パスコードの変更

「パスコード変更 管理者」の QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、管理者パスコードを変更することができます。8桁以内の数字を設定してください。なお、「00000000」を設定すると、管理者画面に入るときにパスコード入力や、コマンド QRコード使用時のパスコード入力を省略する設定になります。なお、管理者パスコードはそれぞれの Visage Pass 顔認証端末に個別に設定する必要があります。

3.7.3. QRコードによる、登録用 パスコードの変更

「パスコード変更 登録用」の QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、顔情報の登録、削除を行うときの登録用パスコードを変更することができます。8桁以内の数字を設定してください。なお、「00000000」を設定すると、顔情報を登録、削除するときのパスコード入力を省略する設定になります。なお、登録用パスコードはそれぞれの Visage Pass 顔認証端末に個別に設定する必要があります。

3.7.4. QRコードによる、認証用 パスコードの変更

「パスコード変更 認証」の QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、パスコード認証を行うための認証パスコードを変更することができます。8桁以内の数字を設定してください。なお、「00000000」を設定すると、パスコード認証が無効化されます。なお、認証パスコードはそれぞれの Visage Pass 顔認証端末に個別に設定する必要があります。

3.7.5. QRコードによる、2要素 パスコードの変更

「パスコード変更 2要素」の QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、2要素認証を行うための2要素パスコードを変更することができます。8桁以内の数字を設定してください。なお、「00000000」を設定すると、2要素認証は無効化されます。なお、2要素パスコードはそれぞれの Visage Pass 顔認証端末に個別に設定する必要があります。また、2要素パスコードはそれぞれの Visage Pass 顔認証端末について1種類設定可能です。

3.7.6. QRコードによる、ユーザーリストの確認

QRコード「ユーザーリスト」を Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、ユーザー一覧を表示することができます。ユーザー一覧の表示中に QRコードを認識させるとページを送ることができます。また、表示から 30 秒以上操作が無い、もしくはユーザー一覧の最後のページで QRコードを認識させることで、元の画面に戻ります。

3.7.7. QRコードによる、解錠履歴の確認

QRコード「解錠履歴」を Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、端末起動以降の解錠された時刻と解錠要因の履歴を確認することができます。解錠履歴の表示中に QRコードを認識させるとページを送ることができます。また、表示から 30 秒以上操作が無い、もしくは解錠履歴の最後のページで QRコードを認識させると元の画面に戻ります。



注意

この画面の解錠履歴は端末の再起動によりクリアされます。この画面では、Visage Pass 顔認証端末の起動/再起動 以前の解錠履歴は確認できません。永続的に解錠履歴を残すにはサーバー連携動作をご利用ください。

3.7.8. QRコードによる、各パラメーター変更

パラメーター設定用のコマンド QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、各パラメーターを設定することができます。各パラメーターの変更は、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。意図しない設定変更を行うと期待しない動作になる場合があります。サポートするコマンドの詳細については、「9 パラメーター」を参照してください。パラメーター設定用のコマンド QRコードは、QRコード作成ツールを用いて作成することができます。QRコード作成ツールの利用方法は「6 QRコードの作成」を参照してください。



注意

パラメーターの設定変更は、認証精度に影響します。特段の理由がない限り、出荷時の設定から変更しないでください。

3.7.9. QRコードによる、端末設定モードへの移動

端末設定モードのコマンド QRコードを Visage Pass 顔認証端末にかざし QRコードを認識させることで、端末設定モードに移動することができます。端末設定モードでの設定変更は、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。意図しない設定変更を行うと期待しない動作になる場合があります。

3.7.10. QRコードによる、パスコード入力

パスコード入力画面において、ボタン QRコード「数字」を Visage Pass 顔認証端末にかざし、QRコードを認識させることで、パスコードを入力することができます。ボタン QRコード「数字」を 1 回かざすと、QRコードに書かれている数字が 1 文字入力され、ボタン QRコード「OK」をかざすと、入力を完了します。ボタン QRコード「中止」をかざすと、それまでの入力をすべてキャンセルし、ひとつ前の画面に戻ります。

また、QRコード作成ツールを用いてパスコード用の QRコードを作成することで、パスコードをまとめて入力することもできます。

4. 表示

以下に、表示されるステータスおよびメッセージを説明します。

4.1. ステータスバー

画面上部のステータスバーは Visage Pass 顔認証端末の状態を表示します。

画像の種類	表示している画像の種類を表示します。「DAY」と表示されている場合は RGB カメラ(可視光カメラ)の画像を表示しています。「NIGHT」と表示されている場合は IR カメラ(赤外線カメラ)の画像を表示しています。
認証スコア	顔認証を行った場合のスコアを表示します。顔認証を行わない期間は「準備中」と表示します。
ネットワーク状態	ネットワークの接続状態を表示します。親子構成において、子機は親機との疎通が確認できない場合、「LAN」が表示されます。 サーバー連携において、サーバーとの疎通が確認できない場合、「SRV」が表示されます。また、電気錠制御端末との疎通が確認できない場合、「ELK」が表示されます。
日時	Visage Pass 顔認証端末内部の日時を表示します。ずれがある場合は時刻設定コマンドにより時刻合わせを行ってください。

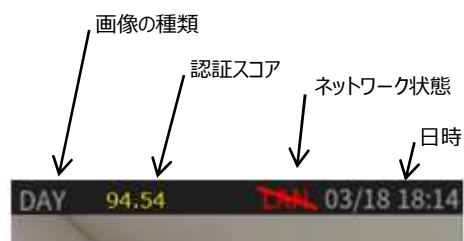


図 24 ステータスバー

4.2. 顔認証／顔画像追加時のガイドメッセージ

以下に、顔認証／顔画像追加時に表示されるガイドメッセージを説明します。

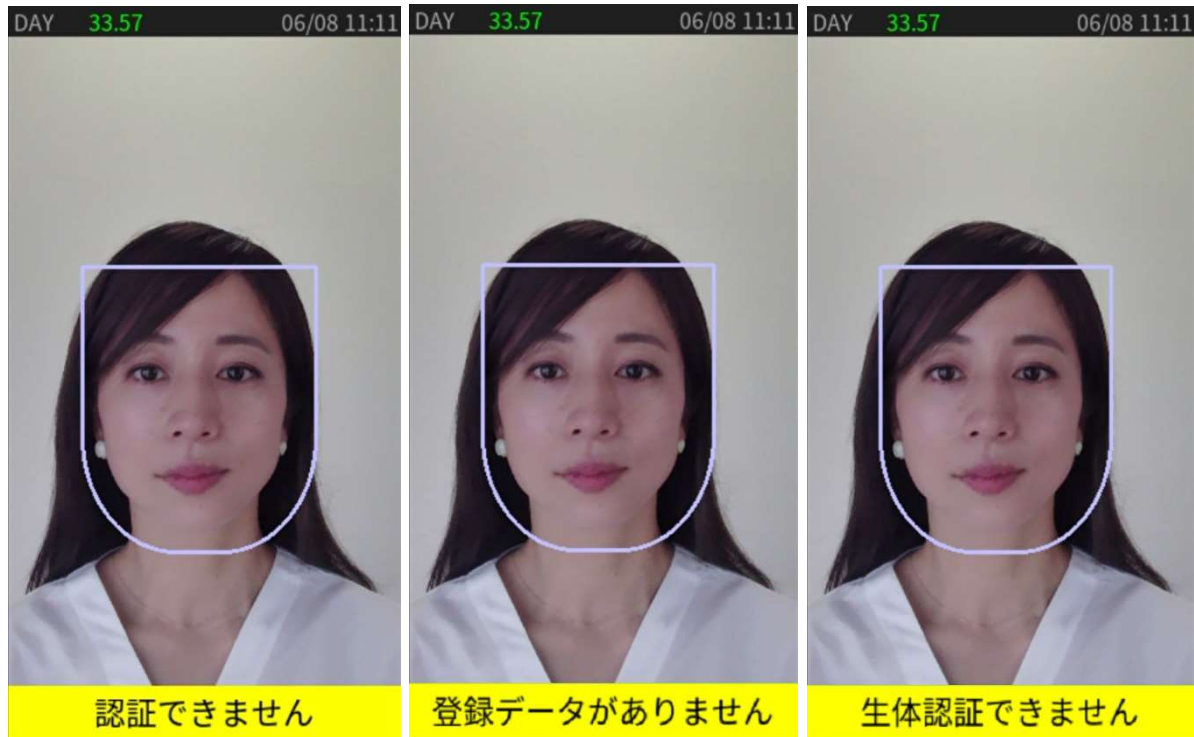


表 2 ガイドメッセージ一覧

メッセージ	対処方法
認証できません (*1)	認証スコアを満たす顔情報が見つかりませんでした。認証しなおしてみてください。 また、顔情報を登録されていない人物の可能性あります。
登録データがありません	端末内に、顔認証用の登録データが保持されていないため認証できません。サーバー連携動作の場合はサーバーからの登録データの配信をお待ちください。
生体認証できません	生体認証できませんでした。なりすましの可能性を検知しました。少し待つと認証されますが、待っても認証されない場合は、撮影される顔の位置を変えるなどで認証しなおしてみてください。

(*1) 「認証できません」のメッセージは、メッセージ設定コマンドにより変更することができます。

4.3. 情報メッセージ

以下に、Visage Pass 顔認証端末に表示されるポップアップで情報を表示するメッセージを説明します。

表 3 情報メッセージ一覧

番号	表示内容	説明
J001	カメラ未検出(J001) 再起動します お待ちください	A I カメラを検出できないため、再起動して回復を試みます。 再起動をお待ちください。
J002	キャンセル(J002)	操作がキャンセルされました。
J003	システム再起動(J003) 再起動します お待ちください	システムを再起動します。 再起動をお待ちください。
J004	システム停止(J004) 再起動します	システム停止し、再起動します。 再起動をお待ちください。
J005	タイムアウト(J005) 操作を取消します	一定時間操作されなかったため、タイムアウトにより操作を取り消しました。操作をやりなおしてください。
J006	登録データを更新します (J006) お待ちください	端末が顔認証するための登録データについて、Visage Pass Web サービスまたは親端末に新しいデータが用意されたのでダウンロードして更新します。処理の完了をお待ちください。
J007	更新しました(J007)	QR コードによる設定の更新を行いました。
J008	更新処理中(J008) nn% お待ちください	顔データの更新処理中です。nn%は進捗を現します。完了するまでお待ちください。
J009	時刻設定 (J009)	時刻を設定します。
J010	時刻設定 (J010) 再起動します お待ちください	時刻設定を反映するために端末の再起動を行います。 再起動をお待ちください。
J012	登録しました！ (J012)	顔データの登録を行いました。
J014	表示終了 (J014)	表示を終了します。

J015	未登録者メッセージ 設定 (J015)	表示を終了します。
J030	2 要素パスコード (J030) パスコードを変更しました	2 要素パスコードを変更しました。
J031	管理者パスコード (J031) パスコードを変更しました	管理者パスコードを変更しました。
J032	登録用パスコード (J032) パスコードを変更しました	登録用パスコードを変更しました。
J033	認証パスコード (J033) 保存できませんでした 操作をやり直してください	認証パスコードの保存に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
J040	未登録ユーザーです(J040) (J040)	ユーザー削除において、指定した I D のユーザーは登録されていませんでした。
J042	削除しました(J042)	ユーザー削除を行いました。
J050	パラメーター設定(J050) Web サービス要求	Visage Pass Web サービスによる設定変更要求を処理しました。
J051	パラメーター設定(J051)	設定値を表示します。
J060	サーバー 応答なし(J060)	Visage Pass Web サービスのサーバーの応答がない状態です。
J061	解錠端末 応答なし(J061)	端末設定モードにおいて、解錠を制御する Visage Pass 顔認証端末の応答がない状態です。
J062	端末設定完了(J062) 再起動します	端末設定モードにおいて、端末設定が完了したので、再起動して顔認証アプリを起動します。
J063	設定を反映します(J063) 再起動します	端末設定モードにおいて、設定内容を Visage Pass 顔認証端末に反映するため再起動します。再起動後、端末の設定処理を継続します。

J064	使用できない文字(J064) a から z までの小文字、 0 から 9 までの数字、 および _(下線)が使えます。	端末設定モードにおいて、SSH 通信のアカウント名に使用できない文字が入力されました。文字を確認して入力しなおしてください。
J065	使用できない文字(J065) SSHパスワードの処理に 使えない文字列です。	端末設定モードにおいて、SSH 通信のパスワード設定処理に使用できない文字列です。文字を確認して入力しなおしてください。パスワード設定処理に使用できる文字列は文字数が 1 文字以上かつスペースを含まない文字列です。
J066	親機 応答なし(J066)	端末設定モードにおいて、親機となる Visage Pass 顔認証端末の応答がない状態です。
J067	設定できません(J067) SSHポート番号は 22、 もしくは 1024~65535 の数値です。	端末設定モードにおいて、使用できない値をポート番号として設定しようとした。SSH 通信に使用できる値を入力してください。
J068	設定できません(J068) 設置コードは 8 桁以内の整数です。	端末設定モードにおいて、設置コードには、8 桁以内の整数を入力してください。
J069	設定ファイル作成(J069) [ファイル名]	端末設定モードにおいて、端末設定のファイルを作成します。[ファイル名]には bash.bashrc、hosts、hostname、dhcpcd.conf があります。
J070	端末設定モード起動(J070) 再起動します お待ちください	設定を反映するために端末の再起動を行います。再起動後も端末設定を継続します。
J080	SSH通信設定(J080)	端末設定モードにおいて、SSH通信の設定を行います。

<p>J081</p>	<p>S S H通信 設定中 (J081)(nn)</p>	<p>端末設定モードにおいて、S S H通信設定の進捗を表示します。 (nn)は以下の値を取ります。 (01) 設定開始 (02) 秘密鍵の生成完了 (12) 単体動作／親機用の設定開始 (13) 単体動作／親機用の設定、アプリケーションチェック完了 (21) 子機の設定開始 (22) 子機の設定、アプリケーションチェック完了 (32) サーバー連携の設定開始 (33) サーバー連携、電気錠端末への公開鍵の設定完了 (34) サーバー連携、電気錠端末のチェック完了 (35) サーバー連携のS S Hサーバー設定開始 (36) サーバー連携のS S Hサーバーへの公開鍵の設定完了、アプリケーションチェック開始 (90) 設定ファイルチェック開始 (91) 設定ファイルの更新 (92) 設定終了処理を開始 (99) S S H通信設定完了</p>
<p>J082</p>	<p>S S H設定を中止します(J082)</p>	<p>端末設定モードにおいて、S S H通信の設定を中止します。</p>

4.4. エラーメッセージ

以下に、Visage Pass 顔認証端末に表示されるエラーメッセージを説明します。

表 4 エラーメッセージ一覧

番号	表示内容	説明
E001	2要素パスコード(E001) 保存できませんでした 操作をやり直してください	2要素パスコードの保存に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E002	パスコードが違います(E002) 正しいパスコードを入力してください	パスコードが違います。正しいパスコードを入力してください。
E003	管理者パスコード(E003) 保存できませんでした 操作をやり直してください	管理者パスコードの保存に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E004	認証パスコード(E004) 保存できませんでした 操作をやり直してください	認証パスコードの保存に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E010	ID間違い?(E010) 登録済みの顔に似ていません ID=[ID番号] (n) IDを確認してください	登録済みの顔データと一致しないことを検知しました。登録するIDが正しいか確認するか、再度操作してください。n=1 認証スコアが登録用の閾値より低い(登録前) n=2~4 認証スコアが登録用の閾値より低いかIDが一致しない(登録予定データ利用)
E011	ID間違い?(E011) 登録済みの顔に似ていません IDを確認してください	登録済みの顔データIDと一致しないことを検知しました。登録するIDが正しいか確認するか、再度操作してください。
E012	ID登録数を超過しました(E012) 登録できるIDは、1000件までです 登録者を見直してください	登録済みのIDの数を超過しました。登録者の見直しを行い、利用されていない登録者を削除して、1000件以内にしてください。
E013	削除失敗(E013) サーバー応答異常 管理者にお問い合わせください	Visage Pass Web サービスからの応答が無いエラーのため、ユーザー削除に失敗しました。管理者にお問い合わせください。
E014	削除失敗(E014) 操作をやり直してください	ユーザー削除に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。

E015	削除失敗(E015) 認証が許可されていません 管理者にお問い合わせください	この端末での顔認証が Web サービスにより許可されていないため、ユーザー削除ができません。管理者にお問い合わせください。						
E016	登録回数を超えました(E016) 顔登録は I Dあたり 99999 回までです I Dを一旦削除し、再登録してください	顔データの更新回数が 99999 回を超えました。該当する I Dをいったん削除して、再登録してください。						
E017	登録失敗(E017) サーバー応答異常 管理者にお問い合わせください	Visage Pass Web サービスからの応答が無いかエラーのため顔登録に失敗しました。管理者にお問い合わせください。						
E018	登録失敗(E018) 操作をやり直してください	顔データの登録に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。						
E019	登録失敗(E019) 認証が許可されていません 管理者にお問い合わせください	この端末での顔認証が Web サービスにより許可されていないため、顔登録ができません。管理者にお問い合わせください。						
E020	登録用パスコード(E020) 保存できませんでした 操作をやり直してください	登録用パスコードの保存に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。						
E021	別 I Dに登録済み？(E021) 別 I D に似た顔が登録されています ID=[ID 番号] I Dを確認してください	登録済みの別な ID の顔データと一致することを確認しました。登録する ID が正しいか確認するか、再度操作してください。						
E022	有効期間外(E022) [日時]	顔データの有効期限が過ぎています。有効期間を見直してください。						
E023	有効期間外エラー(E023) [日時]	有効期間の設定にエラーがあります。有効期間を見直してください。						
E024	有効期間外です(E024) 有効期間を待つか見直してください	顔データ登録の有効期間外です。有効期間になるのを待つか、有効期間を見直してください。						
E025	撮影に失敗しました(E025) [メッセージ 1] [メッセージ 2]	カメラでの顔の撮影において、A I がエラーを検知しました。メッセージ 2 に従い対処をお願いします。 <table border="1" data-bbox="715 1921 1511 2069"> <tr> <td>メッセージ 1</td> <td>メッセージ 2</td> </tr> <tr> <td>登録者を検出できませんでした</td> <td>操作をやり直してください</td> </tr> <tr> <td>複数の顔を検知しました</td> <td>操作をやり直してください</td> </tr> </table>	メッセージ 1	メッセージ 2	登録者を検出できませんでした	操作をやり直してください	複数の顔を検知しました	操作をやり直してください
メッセージ 1	メッセージ 2							
登録者を検出できませんでした	操作をやり直してください							
複数の顔を検知しました	操作をやり直してください							

		遠すぎます、近づいてください	操作をやり直してください
		正面でカメラを見てください	操作をやり直してください
		映像がぼやけています	操作をやり直してください
		遠すぎます、近づいてください	操作をやり直してください
		マスクなどは外してください	操作をやり直してください
		A I カメラ異常です	再起動してやり直してください
		登録者を検出できませんでした	操作をやり直してください
		生体認証できませんでした	操作をやり直してください
		登録者を検出できませんでした	操作をやり直してください
		code(nn)	操作をやり直してください
E030	この操作はできません(E030) 端末操作は制限されています 管理者にお問い合わせください	Visage Pass Web サービスと連携する場合は、端末では実行できない操作です。管理者にお問い合わせください。	
E031	登録・削除できません(E031) この端末では制限されています 管理者にお問い合わせください	顔登録、ユーザー削除の操作が行えない端末です。顔登録、ユーザー削除の操作が許可された端末で操作を行ってください。	
E040	コマンドエラー(E040) QRコードを確認してください	QRコードのコマンドを識別できませんでした。QRコードを確認してください。	
E041	サブコマンド([名称])エラー(E041)	QRコードのサブコマンドの引数を解釈できませんでした。QRコードを確認してください。なお[名称]には、get、set、setpassword、setr、debug、forcenightなどが当てはまります。	
E042	サブコマンドエラー(E042) QRコードを確認してください	QRコードのサブコマンドを識別できませんでした。QRコードを確認してください。	
E043	サブコマンドエラー(E043) モードが違います	自端末電気錠制御を設定するQRコードを認識したが、他端末の電気錠を利用するモードを選択しています。このため自端末の電気錠に関する設定はできません。	
E044	サブコマンドエラー(E044) 引数が正しくない	認識したQRコードのコマンドの引数が正しくない。コマンドの引数を確認してください。	
E045	サブコマンドエラー(E045) 引数が足りない	認識したQRコードのコマンドの引数が不足しています。コマンドの引数を確認してください。	
E047	利用できないQRコード(E047) 設置コードが一致しません QRコードを確認してください	認識したQRコードが、設置コードが異なるため利用できませんでした。QRコードを確認してください。	

E050	更新失敗(E050) 操作をやり直してください	QRコードによる設定更新に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E051	設定変更失敗(E051) 保存できませんでした 操作をやり直してください	管理者画面からの設定変更に失敗しました。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E052	製品 T Y P E 未対応(E052)	工場出荷時設定の処理に失敗しました。未対応な製品 TYPE です。
E060	設定ファイル作成異常(E060)	端末設定のファイル作成に失敗しました。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E061	設定ファイル作成異常(E061) [ファイル名] invalid section	端末設定のファイル作成に失敗しました。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。なお、[ファイル名]には bash.bashrc、hosts、dhcpcd.conf があります。
E062	設定ファイル作成異常(E062) hostname invalid hostname	端末設定のファイル作成に失敗しました。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E070	設定異常(E070) [変数名]	S S H通信 設定に失敗しました。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E071	設定異常(E071) data folder	S S H通信 設定に失敗しました。サーバー連携の場合はサーバー側のフォルダ状態を確認してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E072	設定異常(E072) download application	S S H通信 設定に失敗しました。サーバー連携の場合はサーバー側のフォルダ状態を確認してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E073	設定異常(E073) unlock script	S S H通信 設定に失敗しました。解錠端末での電気錠操作ができません。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E090	システムエラー(E090) 再起動します お待ちください	システムのエラーを検知したため、再起動を行います。操作をやり直してください。再度操作しても同じ結果になる場合は、販売元に確認してください。
E091	工場出荷時設定失敗(E091)	工場出荷時設定の処理に失敗しました。再度操作しても同じ結果になる場合、機器故障が考えられます。

5. 撮影条件について

Visage Pass 顔認証端末において、顔登録や顔認証を行う場合、以下のガイドラインに沿って撮影をお願いします。

5.1. 撮影全般について

撮影環境などは以下のガイドラインに沿って撮影をお願いします。

- 均一な照明で明るさが適切であること。顔に影や光っている部分がないこと。
- 背景と人物の境目がはっきりしていること。
- 顔登録の撮影時は、写っている人物が1人のみで、周囲に他の人物(写真や絵を含む)が居ないこと。
- 顔登録の撮影時は、端末から0.5m~1.0m程度の距離で撮影すること。
- 撮影時は、正面を向くこと。顔の向きは概ね $\pm 20^\circ$ 以内であること。
- 顔登録時と顔認証時の顔貌が著しく異なること。

5.2. 撮影時の顔の部分について

顔の部分について、以下のガイドラインに沿って撮影をお願いします。

- 目線が前方を見ていて、表情は自然であること。
- 口は閉じていて、上、横、下を向いていないこと。
- 髪の毛で眉毛や目、耳が隠れていないこと。
- 左右の眉毛が隠れていないこと。
- 特別な理由がない限り、眼鏡はかけないこと。やむなく眼鏡をかける場合、「5.3 撮影時に眼鏡をかける場合」のガイドラインに沿った撮影を行うこと。
- 特別な理由がない限り、フードや帽子をかぶらないこと。やむなくフードや帽子をかぶる場合、顔に陰影が出ないようにすること。
- 前髪やヒゲなどで、目や鼻などの顔のパーツや輪郭が隠れていないこと。
- ヘアバンドなどで頭髪を覆っていないこと。

5.3. 撮影時に眼鏡をかける場合

撮影時に眼鏡をかける場合は、以下のガイドラインに沿って撮影をお願いします。

- 眼鏡のレンズに光が反射していないこと。
- 眼鏡のフレームが、目や眉を著しく覆っていないこと。
- サングラス、色付きレンズ、ブルーライトカットの眼鏡の着用は避けること。

6. QRコードの作成

Visage Pass 顔認証端末を単体もしくは親子 2 台で利用する場合は、パソコンにインストールした QR コード作成ツールを利用して顔認証ユーザーの管理と QR コードの作成を行う事ができます。パソコンの QR コード作成ツールでは Microsoft Excel（以降、Excel と記載）にて作成した名簿データを、CSV ファイルとして取り込み、Visage Pass 顔認証端末で利用する QR コードを作成することができます。

- ※ 顔認証ユーザーの管理について、Visage Pass 顔認証端末を サーバー連携にて動作させる場合は Visage Pass Web サービスを利用してユーザー管理を行い、顔登録やユーザー削除の QR コードを発行してください。Visage Pass 顔認証端末を単体もしくは親子 2 台で利用する場合について、パソコンにインストールした QR コード作成ツールを利用して顔登録やユーザー削除の QR コードを発行してください。
- ※ CSV ファイルについて。QR コード作成ツールは文字コードに「Shift_JIS」を使用しますので、CSV ファイルを保存する場合は、ファイルの種類「CSV（コンマ区切り）」にて保存し、CSV ファイルの文字コードが「Shift_JIS」となるようにしてください。
- ※ QR コード作成ツールのパソコンへのインストールについては、「10 QR コード作成ツールのインストール」を参照してください。

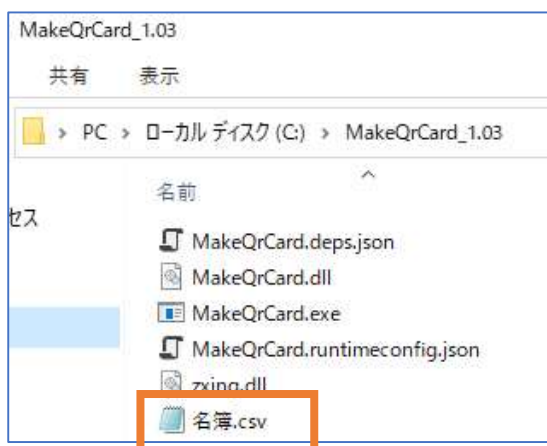
6.1. 名簿を CSV ファイルに保存

Excel にて名簿データを作成し、CSV ファイルに保存します。

手順 ①

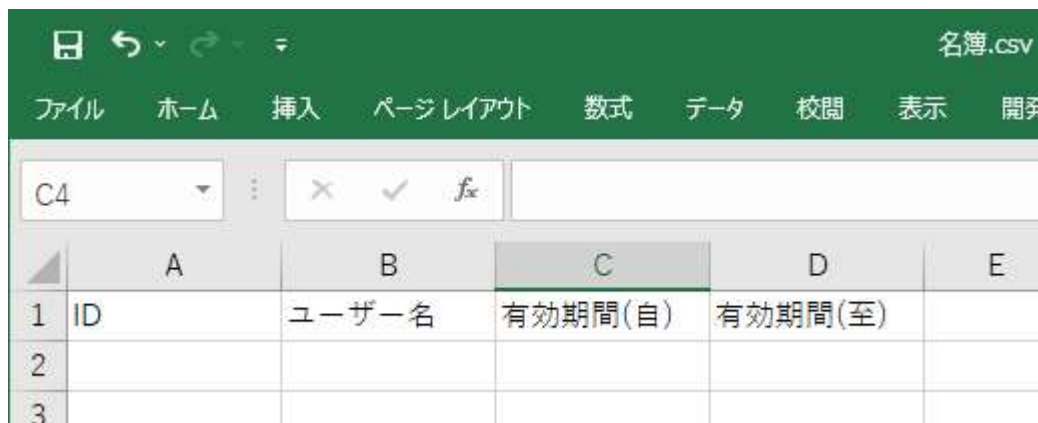
「MakeQrCard_**」フォルダー内の「名簿.csv」ファイルを右クリックし、[プログラムから開く] > [Excel]を選択して開きます。

※本アプリをインストールした際に同梱されていた CSV ファイルを選択してください。



手順 ②

一番上の行の各セルに、それぞれ「ID」「ユーザー名」「有効期間(自)」「有効期間(至)」と入力されていることを確認します。



手順 ③

ID、ユーザー名、有効期間(自)、および有効期間(至)をそれぞれ入力します。

入力した内容は、本アプリの名簿編集機能にて後から変更することも可能です。

※ID の値は一意である必要があります。重複しないようにしてください。

※ID は半角英数字で 5 文字以内が推奨、ユーザー名は 10 文字以内が推奨です。

※長すぎる ID やユーザー名は使用できません。本アプリにて「文字数オーバーです。」というメッセージが表示された場合、ID もしくはユーザー名を短くしてください。

※ID、ユーザー名、有効期間(自)、および有効期間(至)以外のセルはすべて空欄にしてください。

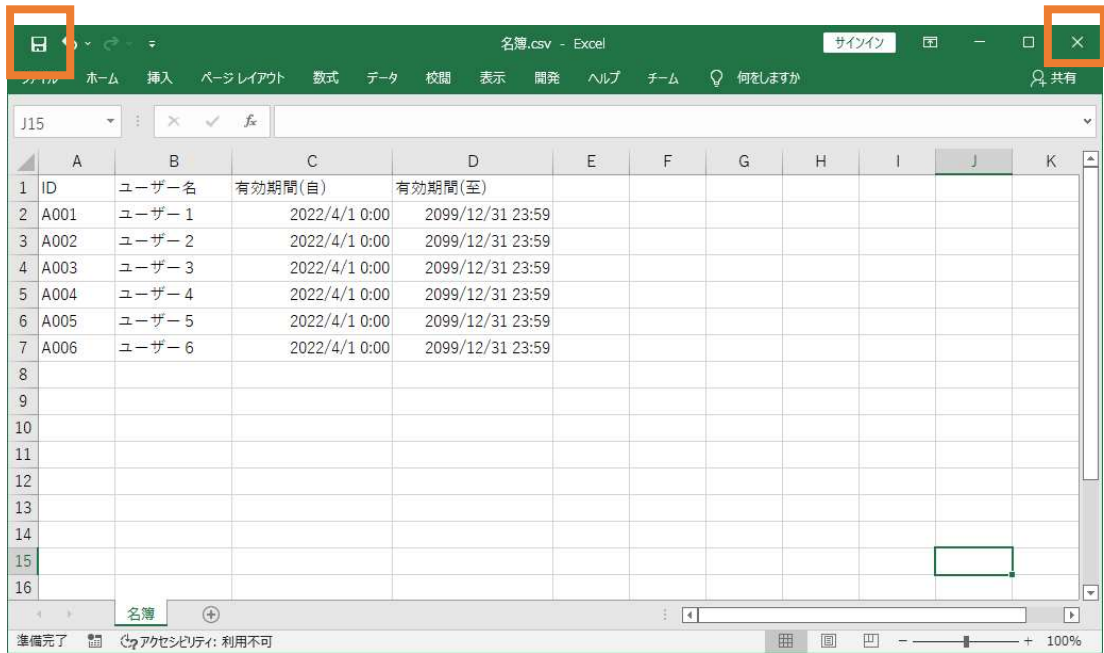
※有効期限は「西暦年/月/日 時:分」の形式で入力してください。

	A	B	C	D	E	F
1	ID	ユーザー名	有効期間(自)	有効期間(至)		
2	A001	ユーザー 1	2022/4/1 0:00	2099/12/31 23:59		
3	A002	ユーザー 2	2022/4/1 0:00	2099/12/31 23:59		
4	A003	ユーザー 4	2022/4/1 0:00	2099/12/31 23:59		
5	A004	ユーザー 5	2022/4/1 0:00	2099/12/31 23:59		
6	A005	ユーザー 6	2022/4/1 0:00	2099/12/31 23:59		

手順 ④

入力が完了したら、上書き保存します。最後に「×」をクリックして CSV ファイルを閉じてください。

※Excel 上で CSV ファイルが開かれたままの状態では、本アプリから上書き保存ができなくなるため必ず閉じてください。



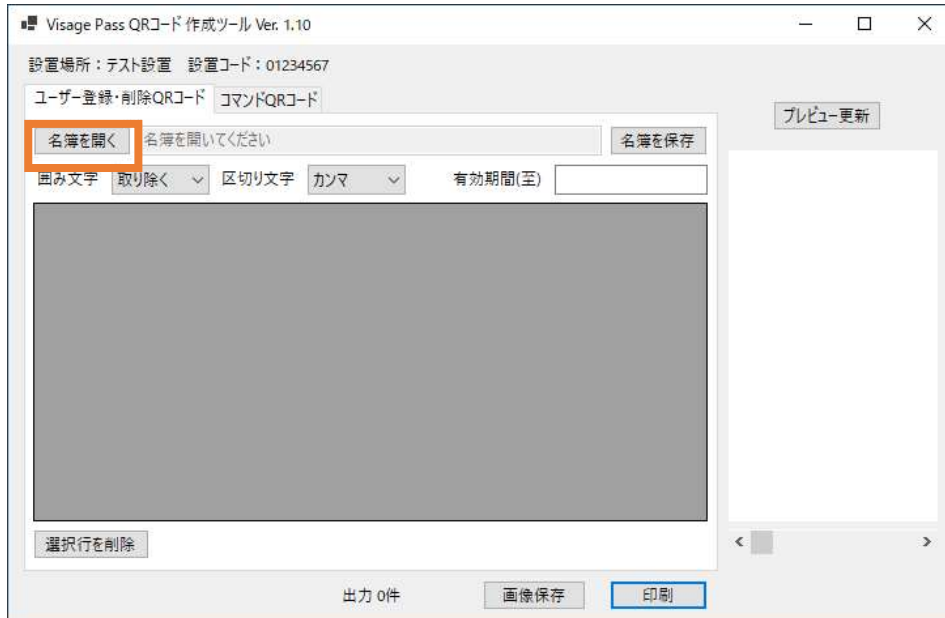
以上で CSV ファイルの保存は完了です。

6.2. 名簿の編集

※CSV ファイルの「ID」「ユーザー名」「有効期間(自)」「有効期間(至)」の列以降にコメント等を挿入する場合、列数は654 列以内になるようにしてください。654 列を超えたファイルは読み込むことができません。

手順 ①

本アプリを起動し、「名簿を開く」をクリックします。



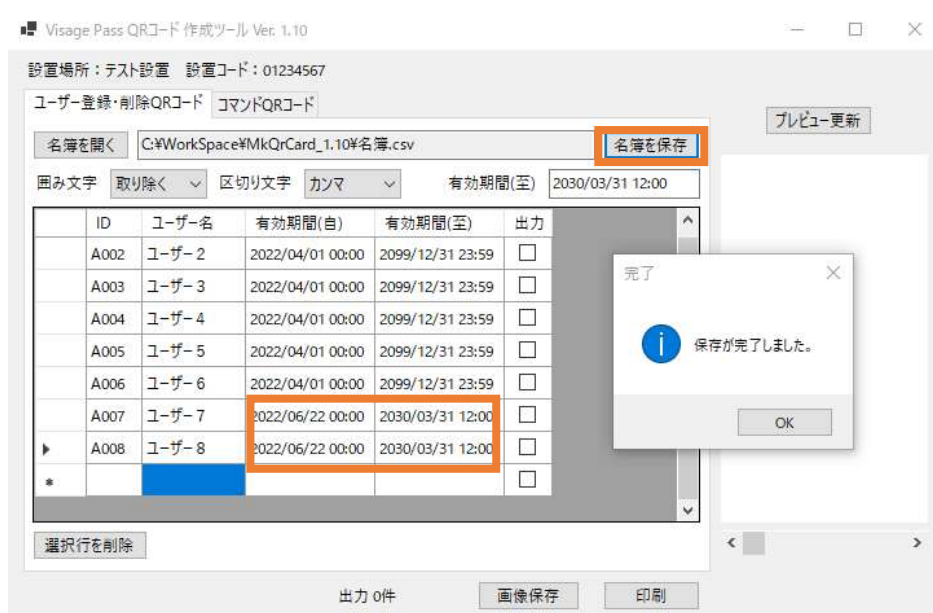
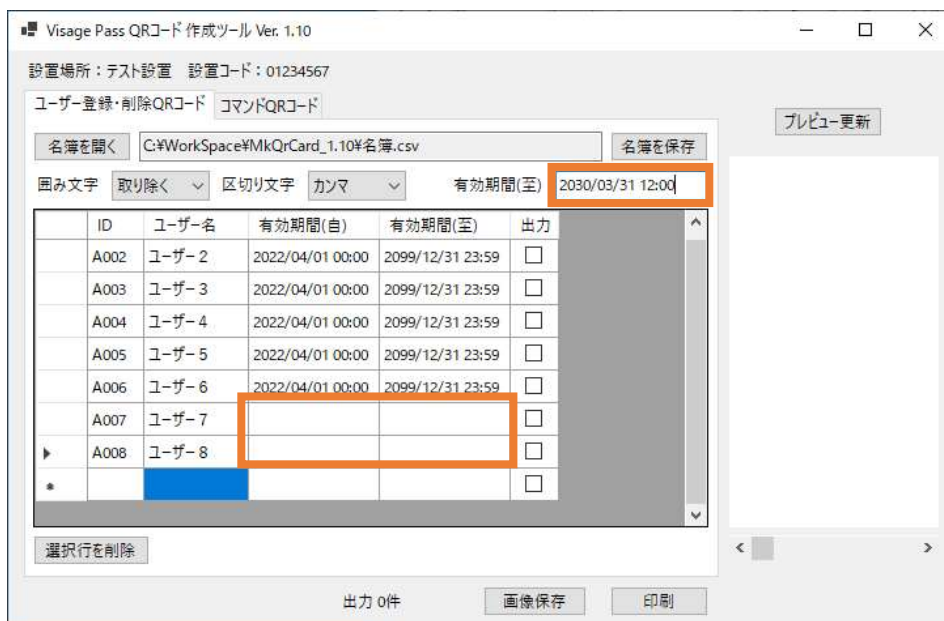
手順 ②

ウィンドウが開かれるので CSV ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



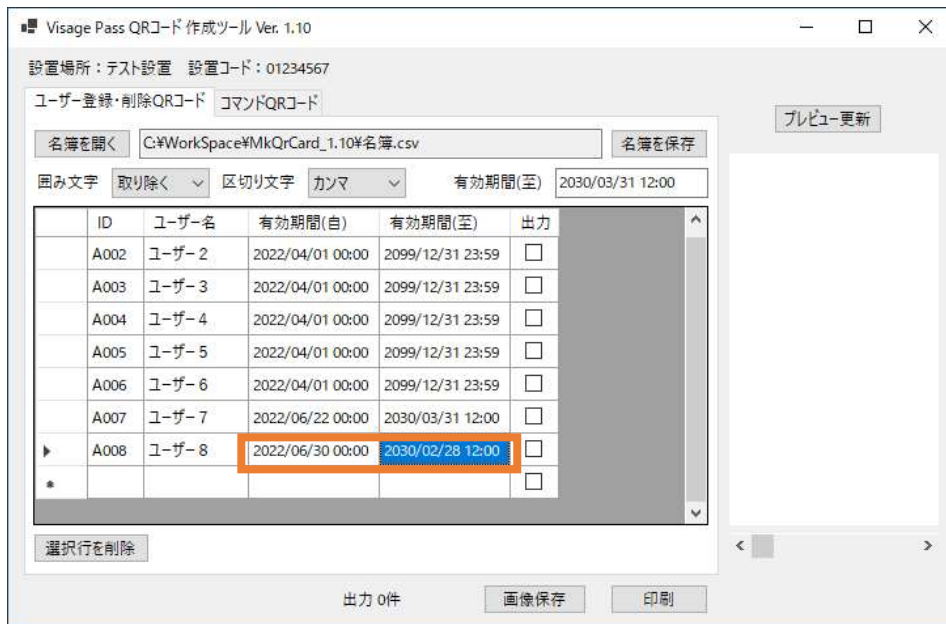
手順 ⑤

画面右上の有効期間(至)入力欄に期限を入力しておく、名簿の「有効期間(至)」が空欄の場合には、「名簿を保存」、「QR イメージ出力」、「プレビュー更新」または「印刷」を行うことで、自動的に値が代入されます。また、名簿の「有効期間(自)」が空欄の場合、操作した日が有効期間の開始日として自動的に入力されます。



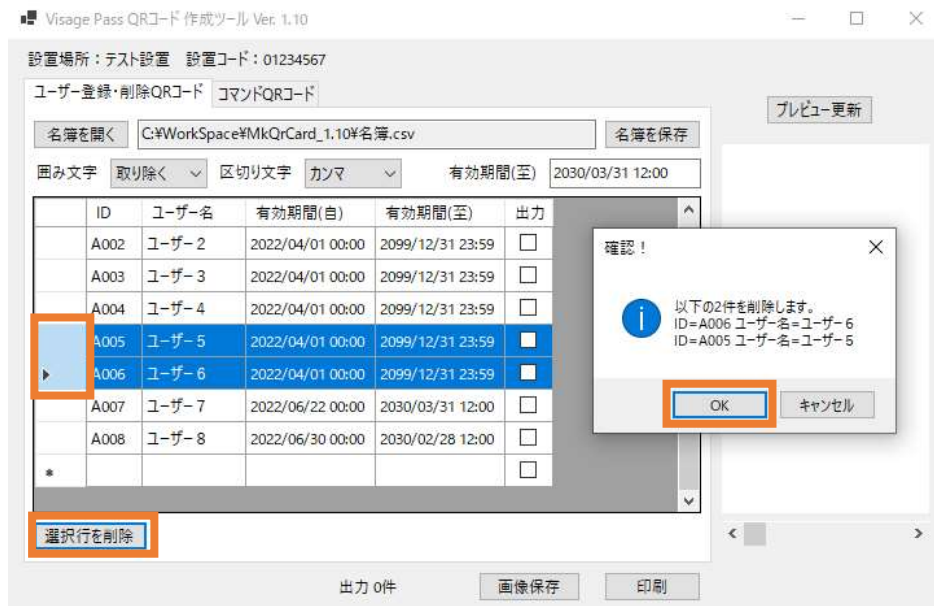
手順 ⑥

「有効期間(自)」および「有効期間(至)」はユーザーごとに個別に設定することが可能です。



手順 ⑦

左端の列をドラッグしてユーザーを選択し、「選択行を削除」をクリックすると、ユーザーを削除することができます。



6.3. 顔登録、ユーザー削除 QR コードの画像出力

以下の手順により顔登録、ユーザー削除 QR コードの画像を作成することができます。なお、顔登録、ユーザー削除 QR コードの画像を出力するには名簿ファイルが必要です。

手順 ①

名簿ファイルを読み込みます。

手順 ②

QR コードの画像を保存したいユーザーの「出力」チェックボックスにチェックを入れます。

「プレビュー更新」をクリックすると、出力する画像を確認することができます。スクロールバーでプレビュー表示をきりかえ、すべての出力する画像を確認することができます。



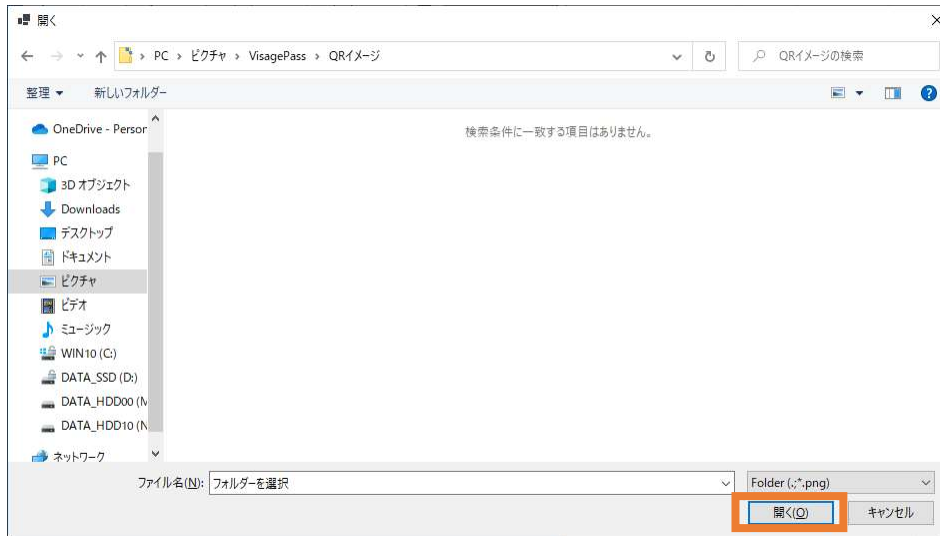
手順 ③

出力したいユーザーの「出力」チェックボックスにチェックを入れ、「画像保存」をクリックします。



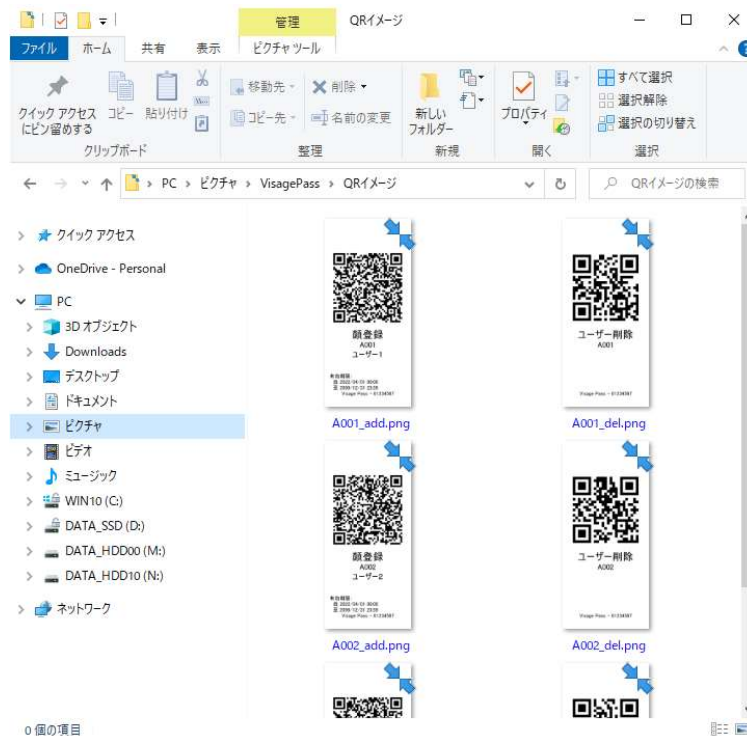
手順 ④

画像を保存するフォルダーを選択し「開く(o)」をクリックすることで QR コードの画像が保存されます。



手順 ⑤

保存された画像ファイルをスマートフォンに送り、スマートフォンで表示させた画像を Visage Pass 顔認証端末に認識させてご利用ください。



6.4. 顔登録、ユーザー削除 QR コードの印刷

以下の手順により顔登録、ユーザー削除 QR コードを印刷することができます。なお、顔登録、ユーザー削除 QR コードを印刷するには名簿ファイルが必要です。

※QR コードの印刷には、A4 用紙を使用してください。A4 以外の大きさの紙には印刷できません。

手順 ①

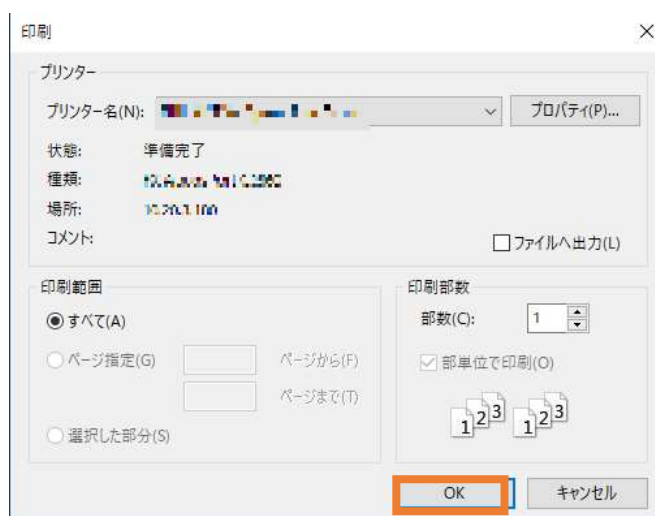
名簿ファイルを読み込みます。「プレビュー更新」をクリックすると、出力する画像を確認することができます。

印刷したいユーザーの「出力」チェックボックスにチェックを入れ、「印刷」をクリックします。



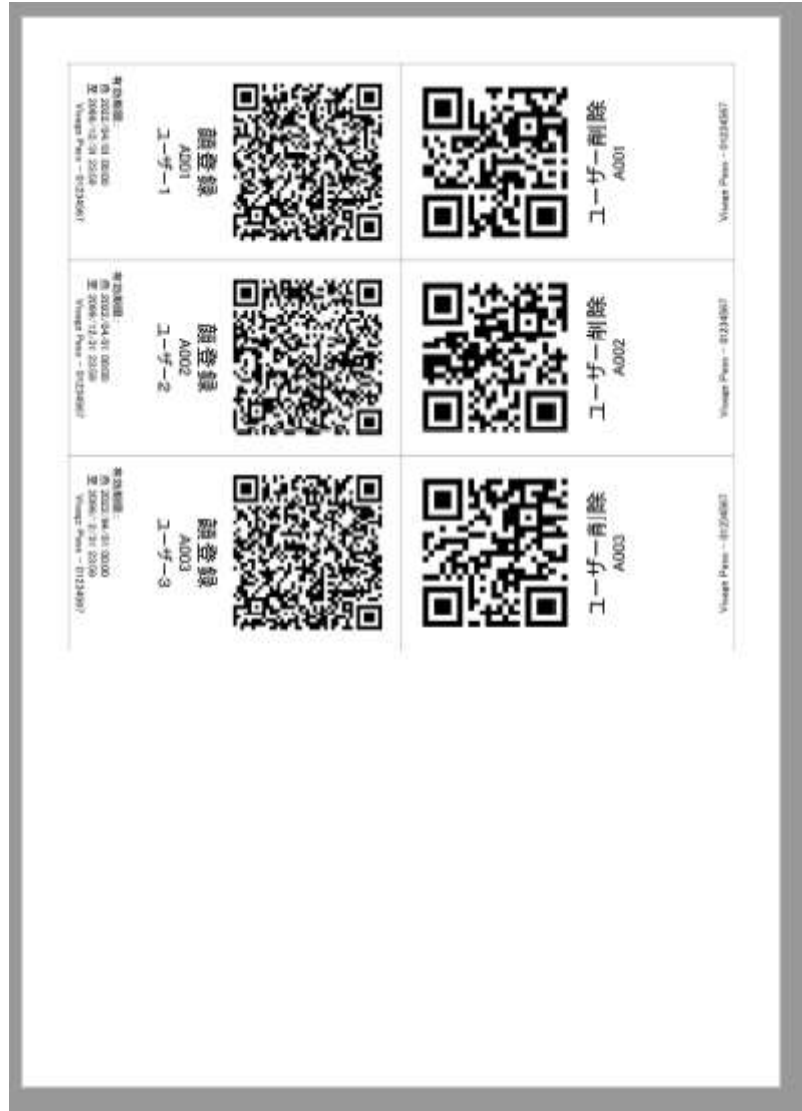
手順 ②

印刷の設定を確認し「OK」をクリックすることで印刷が開始されます。



手順 ③

顔登録、ユーザー削除の QR コードは、5 名分を 1 枚の用紙にまとめて印刷します。QR コードは、顔登録とユーザー削除の QR コードがとなりあって印刷されますので、ハサミなどで ID ごとに切り離してご利用ください。なお、5 名以上の QR コードを印刷する場合は複数ページに続けて印刷します。また、後述のコマンド QR コードを入力した場合、コマンド QR コードは、顔登録、ユーザー削除の QR コードに続いて印刷されます。



6.5. コマンド QR コードの画像出力

以下の手順により Visage Pass 顔認証端末の各種操作や設定を行うコマンド QR コードの画像を作成できます。



注意

Visage Pass 顔認証端末のパラメーターの設定変更は、認証精度に影響します。特段の理由がない限り、出荷時の設定から変更しないでください。

手順 ①

「コマンド QR コード」タブを選択します。よく利用するコマンドについては、定形コマンドとして用意してあります。定形コマンドの QR コードを作成するには、定形コマンドの「出力する」にチェックを付けてください。また、パラメーターの設定変更などは、「コマンド直接入力」欄を利用し、作成するコマンドコードを直接入力してください。改行して複数のコマンドを入力することができます。なお、サポートするコマンドの詳細については、「8. QR コード コマンド一覧」を参照してください。

(例) 以下は、定形コマンドを出力し、認証距離を調節するため、認証する顔画像のサイズを 33 に設定するコマンドを作成する例です。

定形コマンドの「出力する」にチェックを付け、「コマンド直接入力」欄に「cmd set face_size 33」を入力します。



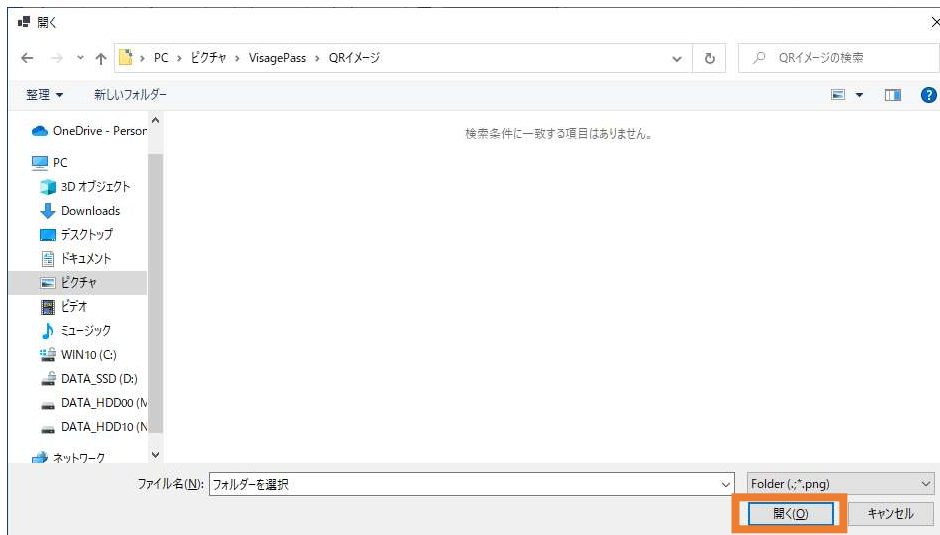
手順 ②

「プレビュー更新」をクリックすると、出力する画像を確認することができます。スクロールバーでプレビュー表示をきりかえ、すべての出力する画像を確認することができます。確認ができれば「画像保存」をクリックします。



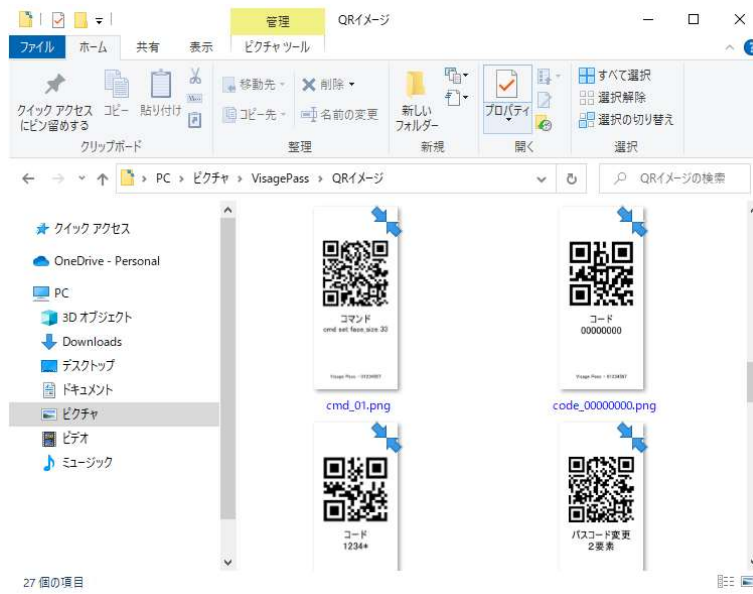
手順 ③

画像を保存するフォルダーを選択し「開く(o)」をクリックすることで QR コードの画像が保存されます。



手順 ④

保存された画像ファイルをスマートフォンに送り、スマートフォンで表示させた画像を Visage Pass 顔認証端末に認識させてご利用ください。



6.6.コマンド QR コードの印刷

以下の手順により Visage Pass 顔認証端末の各種操作や設定を行うコマンド QR コードを印刷できます。



注意

Visage Pass 顔認証端末のパラメーターの設定変更は、認証精度に影響します。特段の理由がない限り、出荷時の設定から変更しないでください。

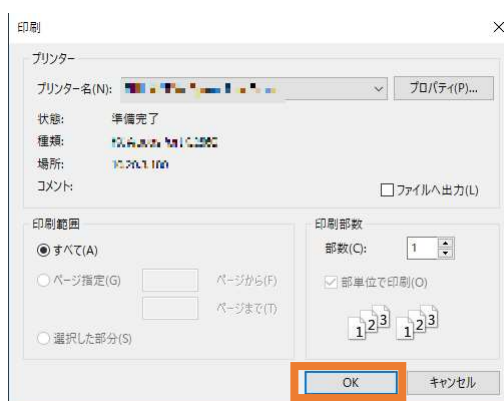
手順 ①

「6.5 コマンド QR コードの画像出力」と同様の手順にて、コマンド QR コードを入力します。「プレビュー更新」をクリックし、印刷する画像を確認することができます。スクロールバーでプレビュー表示をきりかえ、すべての出力する画像を確認することができます。確認ができたなら「印刷」をクリックします。



手順 ②

印刷の設定を確認し「OK」をクリックすることで印刷が開始されます。



手順 ③

コマンド QR コードは、10 種類を 1 枚の用紙にまとめて印刷します。ハサミなどでコマンドごとに切り離してご利用ください。なお、コマンド QR コードは、顔登録、ユーザー削除と同時に印刷した場合、顔登録、ユーザー削除の QR コードに続いて印刷されます。

7. Visage Pass 顔認証端末の譲渡と廃棄

Visage Pass 顔認証端末を譲渡／廃棄する場合は、以下の操作を行ってください。

- 単体動作、親機動作させた端末は、「全ユーザー削除」コマンドを実行して、ユーザー情報を削除してください。なお、サーバー連携動作の端末、および子機動作の端末については、自端末にユーザー情報を保持しないため「全ユーザー削除」は不要です。該当端末の譲渡／廃棄により利用しなくなるユーザー情報は接続先のサーバーあるいは親機端末にて削除処理を行って下さい。
- 管理者、登録用、認証、2要素の4種類のパスコードに「00000000」を設定し、パスコードを初期化してください。

8. QRコードコマンド一覧

以下の表が QR コードにおいてサポートするコマンドの一覧です。

これらは、QR コード作成ツールのコマンド欄にコマンド文字列を入力し、QR コードを印刷することで利用できます。

表 5 QR コード コマンド

機能	コマンド	機能	パスコード
登録	add [ID] [名前] [有効期間 至] [有効期間 自] 例) ID=D001、名前=ユーザー 1、有効期限=2021/5/30 23:59 にて登録 add D001 "ユーザー1" 202105302359	顔情報の登録を行います。QR コード作成ツールを使い名簿から作成できます。作成された QR コードをご利用ください。登録用パスコードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、登録用パスコードを入力する必要があります。 [ID]は英数字。 [名前]は ""でくくった文字列です。 [有効期間 至]は有効期間の終わりを表す 12 桁の数字です。 [有効期間 自]は有効期間の始まりを表す表す 12 桁の数字です。省略時は"2022/01/01 0:00"が設定されます。	登録
削除	del [ID] 例) ID D001 の顔情報を削除 del D001	顔情報の削除を行います。QR コード作成ツールを使い名簿から作成できます。作成された QR コードをご利用ください。登録用パスコードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、登録用パスコードを入力する必要があります。 [ID]は英数字。	登録
管理者画面	admin 例) admin	管理者画面を開きます。 管理者パスコードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスコードを入力する必要があります。	管理者
再起動	cmd reboot 例) cmd reboot	システムを再起動します。 管理者パスコードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスコードを入力する必要があります。	管理者
設定 直接値	cmd set [param] [val] 例) 認証スコアの閾値を 92 に設定する。 cmd set recognition_thresh 92	パラメーターの設定を行います。[val]には設定したい値を直接指定します。管理者パスコードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスコードを入力する必要があります。設定変更によってはシステムの再起動後にシステム動作に反映されます。 [param] 対象パラメーター(種類は別表) [val] 設定する数値。(パラメーター毎に設定可能範囲があります。範囲外の場合エラーになります。)	管理者

設定 相対値	cmd setr [param] [val] 例) 認証スコアの閾値を 0.1 小さくする cmd setr recognition_thresh -0.1 値が 92 の場合、本操作により 91.9 に設定されます。	パラメーターの設定を行います。[val]には現在の値から増減したい値を指定します。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。設定変更によってはシステムの再起動後にシステム動作に反映されます。 [param] 対象パラメーター(種類は別表) [val] 設定する値。(パラメーター毎に設定可能範囲があります。範囲外の場合エラーになります。)	管理者
参照	cmd get [param] 例) 認証スコアの閾値を参照する。 cmd get recognition_thresh	パラメーターの参照を行います。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。 [param] 対象パラメーター(種類は別表)	管理者
参照 (一覧)	cmd show 例) cmd show	パラメーターと設定値の一覧を表示します。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。	管理者
ユーザー 一覧	cmd listuser 例) cmd listuser	登録されているユーザーの一覧を表示します。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。	管理者
全ユーザー 削除	cmd deletealluser 例) cmd deletealluser	登録されている全ユーザーの顔情報の削除を行います。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。	管理者
解錠 履歴	cmd listopen 例) cmd listopen	解錠の履歴を表示します。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。なお、参照できる履歴は再起動毎にクリアされます。	管理者
時刻 設定	cmd settime 例) cmd settime	システムの時刻を設定します。引数は不要です。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、管理者パスワードを入力する必要があります。 ただし、ネットワーク時刻同期(NTP)が有効な場合、時刻同期が優先され、このコマンドでの設定は無視されます。	管理者

時刻の値	yymmddhhmm 例) 2023/04/18 16:57 の場合、 2304181657	QR コードで時刻を指定する場合、時刻設定 コマンドを認識させた後、時刻設定画面において、左記の形式の QR コードを用いる事で時刻を指定します。	管理者
パスワード 設定, 変更	cmd setpassword [type] 例) 管理者パスワードを変更する cmd setpassword 1	パスワードの設定および変更を行います。管理者パスワードが設定されている場合、本 QR コードを認識させた後に、現在の管理者パスワードを入力する必要があります。 [type] パスワード種別 1 = 管理者パスワード 2 = 登録用パスワード 3 = 認証パスワード 4 = 2 要素パスワード	管理者
端末設定 モード	cmd initialsetup 例) 端末設定モードに移動する。 cmd initialsetup	端末設定モードに移動します。 端末設定モードは端末を設置するとき、あるいは端末の利用方法を変更する際に利用します。	管理者
メッセージ 設定	cmd setmsg [msgid] [param1] [msgstr] 例) 未登録者メッセージを変更 cmd setmsg 1 0 “いらっしやいませ”	メッセージの設定を行います。 [msgid] 1 : 未登録者メッセージ(1 行目)と色 [param1] = 0(赤)、1(黄)、2(緑) [msgstr] = メッセージ (最大 12 文字) 2: 未登録者メッセージ(2 行目) [param1] = 0 に固定 [msgstr] = メッセージ (最大 12 文字)	管理者
パスワード 認証	[button] 例) ボタン QR コード「1」 1	パスワード認証を行います。 認証パスワードが設定されている場合、本 QR コード「数字」を認識させた後に、再度、認証パスワードを入力すると、解錠動作を行います。認証パスワード未設定の場合は何も行いません。 [button] ボタン種別 0 ~ 9 = 0 ~ 9 の数字 * = OK # = 中止	(認証)

9. パラメーター

Visage Pass 顔認証端末のアプリにおいて設定可能なパラメーターを説明します。各パラメーターの変更は、製品のサポートについて訓練を受けた専門家の支援を受けて使用してください。


 **注意** パラメーターの設定変更は、認証精度に影響します。特段の理由がない限り、出荷時の設定から変更しないでください。

表 6 パラメーター 一覧

項目名 (QR パラメーター名)	説明	初期値	再起動
		設定範囲	
顔認証しきい値 (recognition_thresh)	顔認証において算出された認証スコアについて、認証の成否を判定する値です。認証スコアは本人に似ているほどスコアが高くなり認証しきい値よりもスコアが高くなると、認証は PASS となります。設定変更する場合は、表 7 認証しきい値の目安を参考に設定してください。	91.6	不要
		0.0 ~ 100.0	
顔登録しきい値 (reg_recognition_thresh)	顔データを追加登録する場合について、登録済み顔データに対し本人判定するための認証スコアのしきい値です。	85.0	不要
		0.0 ~ 100.0	
生体判定しきい値 (liveness_thresh)	認証の対象が生体なのかどうかを判定するためのしきい値です。生体判定のスコアは値が低いほど生体であることを示します。	98.0	不要
		0.0 ~ 100.0	
最小顔画像サイズ (face_size)	認証の対象とする最小の顔画像の大きさを画面サイズに対する比率で設定します。最小の顔画像の大きさを調節することで Visage Pass 顔認証端末と認証対象の距離を調節することができます。画面サイズと認証端末との距離の関係については、表 8 画像サイズと距離の目安を参照してください。	22	不要
		0.0 ~ 100.0	
IR ライト明るさ (AICam_IR_Luminance)	赤外線ライトの明るさを設定します。	200	要
		0 ~ 200	
IR ライト点灯時間 (AICam_IR_CloseTime)	顔の検知から赤外線ライトを点灯している時間を設定します。赤外線ライトを点灯している間に顔認証を行います。	30	要
		0 ~ 120	
アンチフリッカー (ae_flicker_freq)	照明が蛍光灯などの場合、撮影する画像に電源の周波数に応じたちらつきが発生する場合があります。この場合、アンチフリッカーの設定を行うことで、ちらつきを低減できます。設定は OFF(0)、50Hz(50)、60Hz(60)から選択することができます。	0	要
		0,50,60	
QR コードサイズ (barcode_size)	認証の対象とする最小の QR コードの大きさを画面サイズに対する比率で設定します。最小の QR コードの大きさを調節することで、Visage Pass 顔認証端末と認識する QR コードの距離を調節することができます。	10	不要
		0.0 ~ 20.0	
認証時名前表示 (frame_title)	認証に成功した場合に表示する内容を選択します。設定は「名前」(0)、「ID」(1)、「表示なし」(2)から選択できます。	0	不要
		0,1,2	
デバッグステータス	保守作業者が機器の状態を確認するために使用します。「OFF」の設定でお使いください。	OFF	不要
		OFF、白、青、水色	
IR カメラ	保守作業者が機器の状態を確認するために使用します。「通常」の設定でお使いください。	通常	不要
		通常、強制	

表 7 認証しきい値の目安

しきい値	推奨する利用状況	注意点
94	マスク着用時でも非常に厳格な個人認証が必要な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 証明写真並みの明瞭さを備えた、極めて高精細な画像による顔データが登録されている必要があります。 ・ 複数回連続して本人拒否が発生する事があるため、ICカードなど別の認証手段との併用が必要です。
92	厳格な個人認証を重視する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高精細な画像による顔データが登録されている必要があります。 ・ マスク装着時に認証失敗した際、複数回の試行や、マスクの取り外しが必要な場合があります。
90	円滑な個人認証を重視する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ まれに他人受入が発生する場合があります。
85	認証行為を示す事が重要な場合 (部外者が自由に出入りする事を抑止する目的など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他人受入の発生を許容する必要があります。

表 8 画像サイズと距離の目安

画像サイズ	認証距離
11	3 m
16	2 m
22	1.5m
33	1m
66	0.5m

10. QRコード作成ツールのインストール

Visage Pass 顔認証端末において、顔の登録や削除、管理者画面の表示の際に使用する QR コードを作成するための Windows アプリケーションになります。

動作 OS : Microsoft Windows 10 (64bit または 32bit)

10.1. .NET Core 3.1 のインストール

QRコード作成ツール（以降、本アプリと記載）の動作には .NET Core 3.1 ランタイム（デスクトップアプリ x86 用）が必要となります。以下の手順にて .NET Core 3.1 ランタイム をインストールしてください。

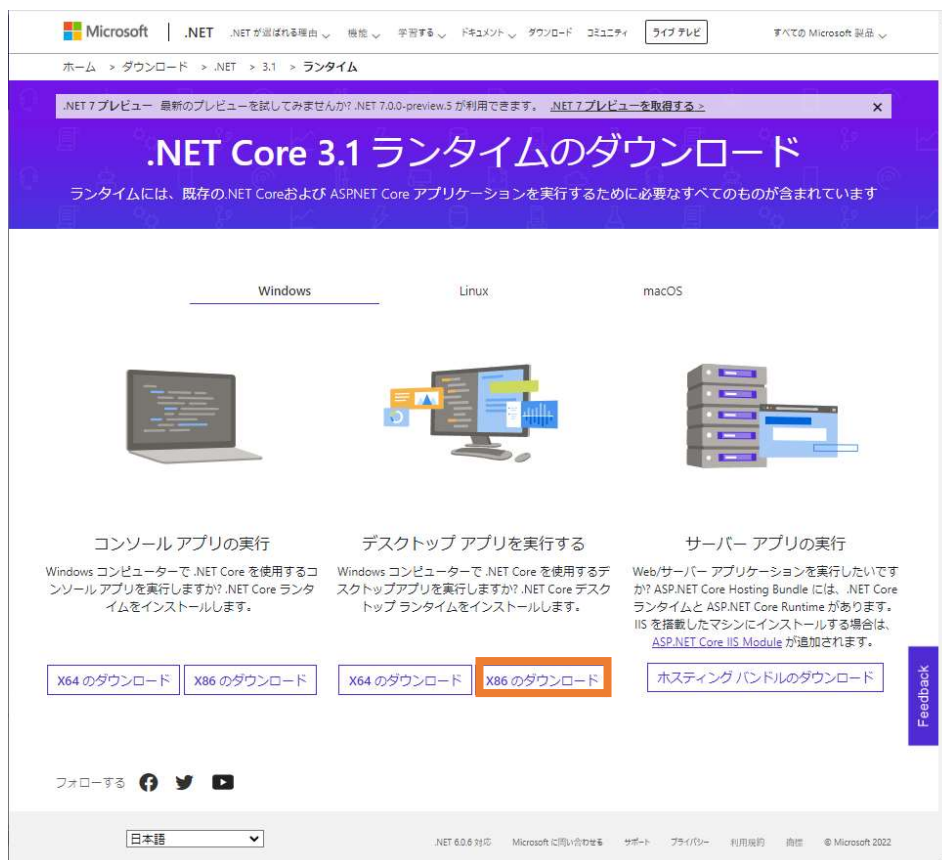
手順 ①

マイクロソフトの公式サイト(以下の URL)にアクセスします。

<https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/3.1/runtime>

手順 ②

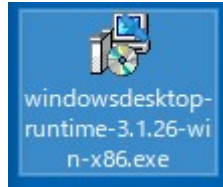
Windows、デスクトップアプリ x86 用 の.NET Core 3.1 ランタイム をダウンロードします。



手順 ③

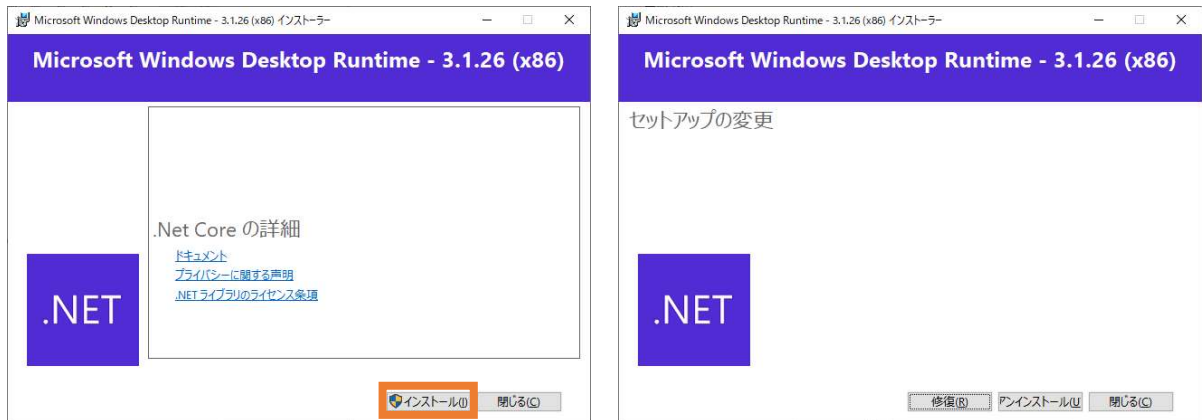
ダウンロードしたインストーラー（windowsdesktop-runtime-3.1.**-win-x86.exe）を起動します。

備考： インストーラーのファイル名中の ** 部分は都度更新されます。最新の.NET Core 3.1 ランタイムをご利用下さい。本書では、執筆時点で最新の.NET Core 3.1 ランタイム、3.1.26 を利用するとして説明いたします。



手順 ④

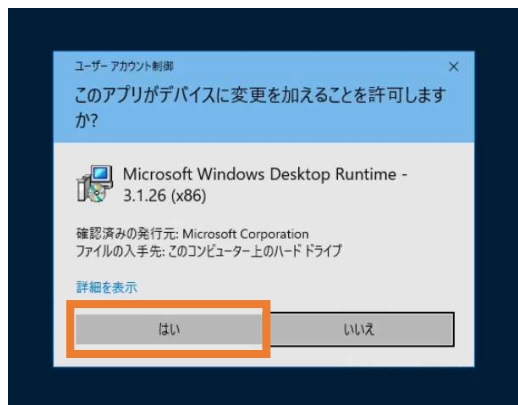
インストーラーを起動すると以下のいずれかの表示になります。「インストール」ボタンがある場合は「インストール」ボタンをクリックしてインストールを開始します。「セットアップの変更」が表示されている場合は .NET Core 3.1 ランタイムは既にインストール済みです。「閉じる」を選択してインストーラーを終了してください。



手順 ⑤

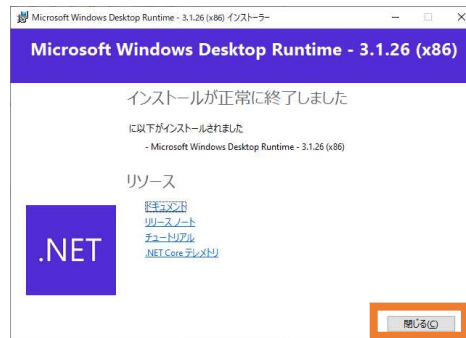
インストールを開始した場合、ユーザーアカウント制御が表示される場合があります。

確認済みの発行元が Microsoft Corporation であることを確認して「はい」をクリックします。



手順 ⑥

インストールを開始した場合、「インストールが正常に終了しました」という画面が出たらインストール完了です。「閉じる」を選択してインストーラーを終了してください。



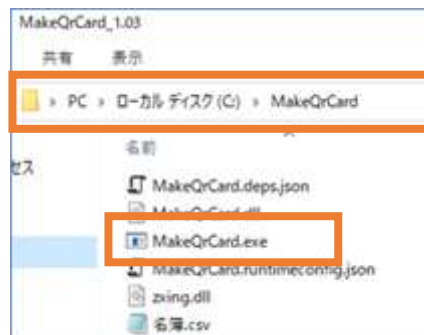
10.2. アプリケーションのインストール

手順 ①

提供された MakeQrCard.zip を Read/Write 可能なローカルドライブの適当な位置に展開してください。展開した MakeQrCard フォルダーに実行ファイルが格納されています。

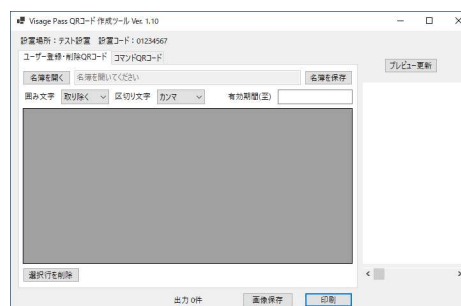
手順 ②

以降の説明は、C ドライブ直下に展開 ("C:¥MakeQrCard¥") したものと説明します。QR コード作成ツールを起動するには、MakeQrCard フォルダー中の MakeQrCard.exe をダブルクリックします。



手順 ③

以下のように、アプリケーションの画面が表示されたら、本アプリのインストールは完了です。



設置工事関係者向け説明

以降の説明は、設置工事関係者に向けた説明です。

11. 関連機器との接続

11.1. 接続例（サーバーと連携して利用する場合）

以下に Visage Pass 顔認証端末をサーバーと連携して利用する場合の接続例を記載します。Visage Pass 顔認証端末をサーバーと連携してご利用いただく場合、Visage Pass 顔認証端末および Visage Pass サーバー間を LAN 接続することで構成することができます。顔データにつきましてはサーバーに登録された情報を Visage Pass 顔認証端末で共有します。このため、顔登録や顔認証を行うには、あらかじめサーバーの Web サービスからユーザー登録と利用できる Visage Pass 顔認証端末の設定を行う必要があります。顔情報以外の設定については、それぞれの Visage Pass 顔認証端末個別に設定することができます。なお、Visage Pass 顔認証端末をサーバーと連携して動作させるには、それぞれの端末の端末設定モードから、端末動作を選択することで設定できます。

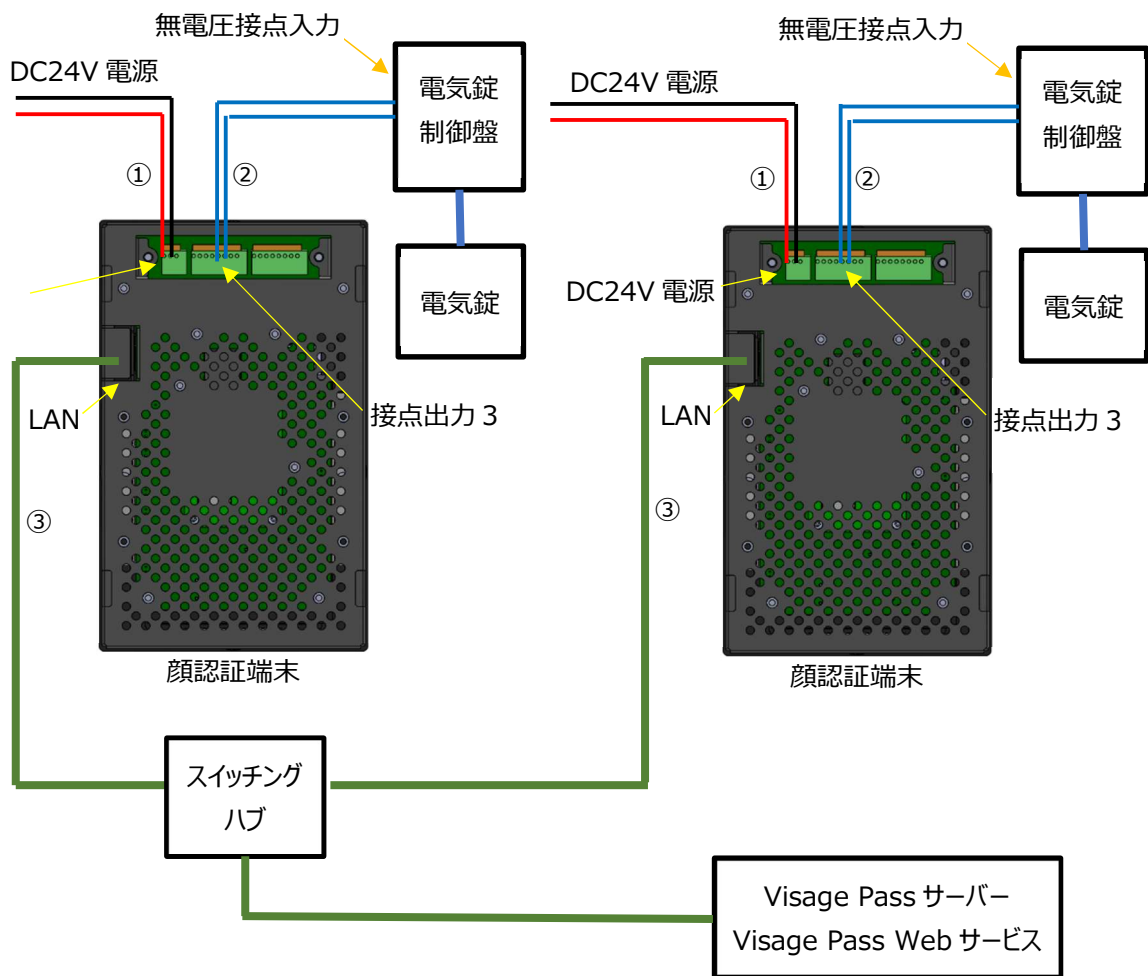


図 25 接続例（VISAGE PASS 顔認証端末 サーバー連携構成）

表 9 配線材（VISAGE PASS 顔認証端末サーバー連携構成）

No.	機能	接続先	推奨線材
①	電源供給	DC24V 電源	AWG#14 ~ AWG#22
②	解錠信号	電気錠 制御盤	CPEV-S/FCPEV-S Φ0.9-1P
③	LAN 線	顔認証端末(親子間)	CAT 5e UTP ケーブル

11.2. 接続例（親子 2 台で連携して利用する場合）

以下に Visage Pass 顔認証端末を 2 台連携で利用する場合の接続例を記載します。Visage Pass 顔認証端末を 2 台構成でご利用いただく場合、Visage Pass 顔認証端末間を LAN 接続することで構成することができます。顔データにつきましては Visage Pass 顔認証端末(親機)に登録された情報を親機と子機で共有します。このため、顔情報の登録、削除は親機でのみ操作可能です。なお、顔情報以外の設定は共有されませんので、親機、子機それぞれの端末で設定を行います。また、電気錠については親機に接続された電気錠を利用します。親機、子機いずれの端末で顔認証を PASS しても、親機に接続された電気錠を解錠します。Visage Pass 顔認証端末を親機/子機に設定するには、それぞれの端末の端末設定モードから、端末動作を選択することで設定できます。

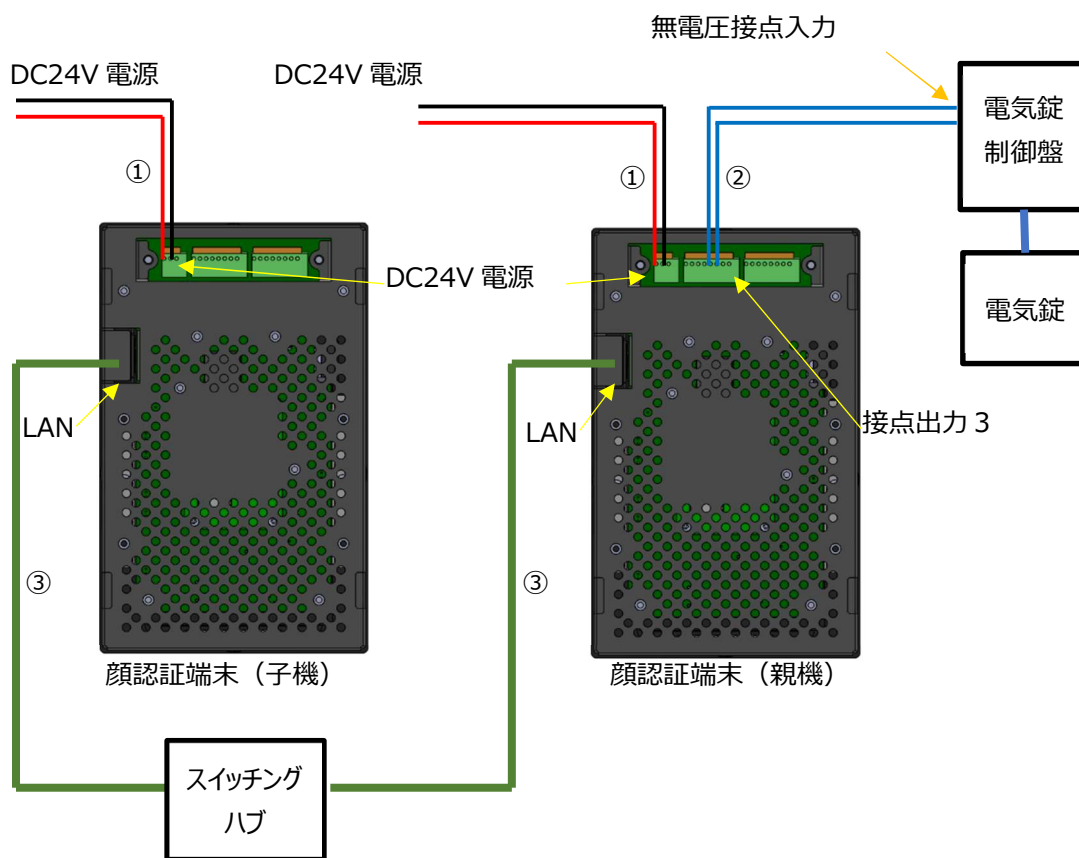


図 26 接続例（VISAGE PASS 顔認証端末 2 台構成）

表 10 配線材（VISAGE PASS 顔認証端末 2 台構成）

No.	機能	接続先	推奨線材
①	電源供給	DC24V 電源	AWG#14 ~ AWG#22
②	解錠信号	電気錠 制御盤	CPEV-S/FCPEV-S Φ0.9-1P
③	LAN 線	顔認証端末(親子間)	CAT 5e UTP ケーブル

11.3. 接続例（1 台構成で利用する場合）

以下に Visage Pass 顔認証端末を 1 台で構成する場合の接続例を記載します。接点出力 3 に極性はありません。

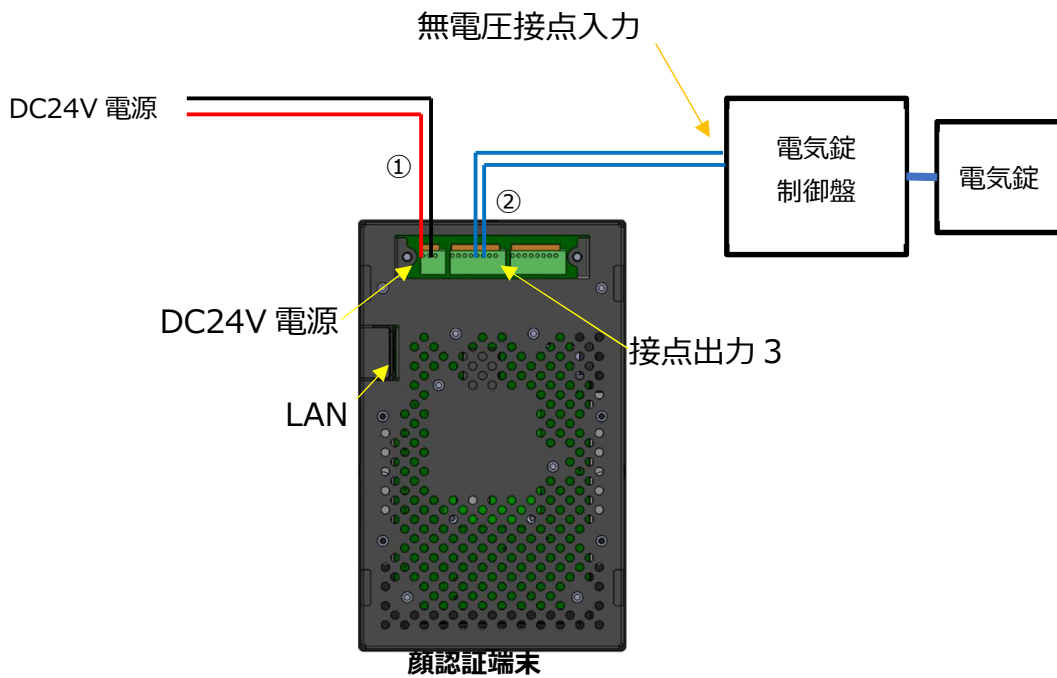


図 27 接続例（VISAGE PASS 顔認証端末 1 台構成）

表 11 配線材（VISAGE PASS 顔認証端末 1 台構成）

No.	機能	接続先	推奨線材
①	電源供給	DC24V 電源	AWG#14 ~ AWG#22
②	解錠信号	電気錠 制御盤	CPEV-S/FCPEV-S Φ 0.9-1P

11.4. Visage Pass 顔認証端末の接続端子

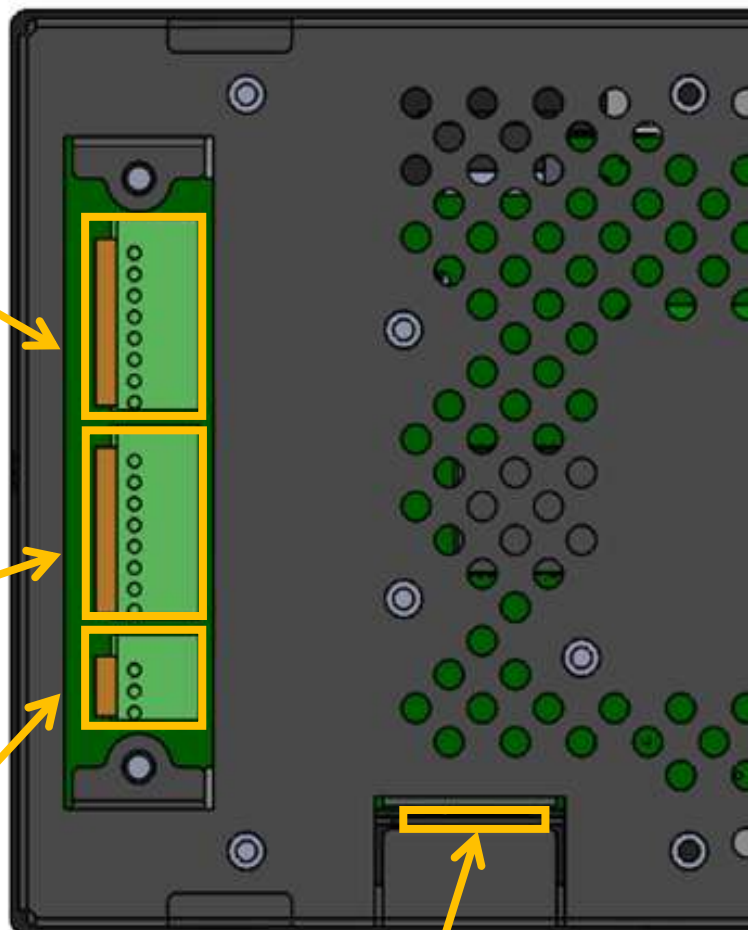
Visage Pass 顔認証端末の端子台、コネクタは以下の機能を備えています。

機能	記号
接点入力 4	GND
	DIN4
接点入力 3	GND
	DIN3
接点入力 2	GND
	DIN2
接点入力 1	GND
	DIN1

機能	記号
接点出力 4	DOUT4
	DOUT4
接点出力 3	DOUT3
	DOUT3
接点出力 2	DOUT2
	DOUT2
接点出力 1	DOUT1
	DOUT1

(注 1) 接点出力に極性はありません。

機能	記号
電源制御	RC
DC24V 電源	GND
	24V



機能
LAN

12. 端末設置手順

以下に Visage Pass 顔認証端末の設置手順を説明します。

重要 端末設定モードでの操作中、処理中は Visage Pass 顔認証端末の電源は切らない様にして下さい。
 端末設定モード中の予期しない電源断は動作異常の原因となる場合があります。

12.1. 設置前準備

以下の事柄については、設置前に準備が必要となります。

- ① 設置位置を識別するための、設置コード を決定します。
- ② 端末の配置を検討し、電源供給や電気錠接続を検討します。
- ③ 端末動作の種類を、サーバー連携、親子 2 台連携、単体動作 から決定します。
- ④ 端末名を決定します。
- ⑤ 端末動作の種類に応じた構成を検討し、必要項目を決定します。

表 12 設定が必要な項目

	サーバー連携 (自端末解錠)	サーバー連携 (他端末解錠)	親機	子機	単体
設置コード	要設定	要設定	要設定	要設定	要設定
端末名	要設定	要設定	要設定	要設定	デフォルト*1
時刻	確認と調整	確認と調整	確認と調整	確認と調整	確認と調整
サブネットマスク	要設定	要設定	要設定	要設定	デフォルト*1
自端末 I P アドレス	要設定	要設定	要設定	要設定	デフォルト*1
サーバー I P アドレス	要設定	要設定	—	—	—
親機 I P アドレス	—	—	—	要設定	—
子機 I P アドレス	—	—	要設定	—	—
サーバーアカウント	要設定*2	要設定*2	—	—	—
S S H ポート番号	要設定*2	要設定*2	—	—	—
電気錠	自端末	他端末	—	—	—
解錠 O P コード	参照*3	—	—	—	—
電気錠端末 I P アドレス	—	要設定	—	—	—

(*1) : LAN 接続しない場合は設定不要。

(*2) : サーバー側に合せる。

(*3) : 強制解錠を行う場合、サーバー側に解錠 O P コードを設定する。

12.2. 端末設定

Visage Pass 顔認証端末の動作の種類にあわせて、必要となる設定について、以下の表に記載します。
 予め準備してください。

12.2.1. サーバー連携の端末設定項目

以下の項目がサーバー連携にて動作を行うために必要となりますので、設置作業を行う前に準備してください。

下表を用いて Visage Pass 顔認証端末 1 台ごとに用意します。

表 13 設定項目表（サーバー連携）

		サーバー連携	
設置コード	要設定	_____	
端末名 種類 番号 付加記号	要設定	端末名： _____ 種類： DOOR、ROOM、ENTRANCE 番号 0-999： [] 付加記号： なし、A、B、C、D	
サブネットマスク	要設定 *1	16bit、24bit	
自端末 IP アドレス	要設定 *2	____.____.____.____	
サーバー IP アドレス	要設定	____.____.____.____	
サーバーアカウント	要設定	_____	
SSHポート番号	要設定	[]	
顔登録動作	要設定 *4	許可する、禁止する	
電気錠の選択	要設定	自端末、他端末	
解錠 OP コード	控える *3	_____	
電気錠端末 IP アドレス	要設定*2		____.____.____.____
管理者パスコード	要設定	_____	
登録用パスコード	要設定	_____	
認証パスコード	要設定	_____ または 設定しない	
2要素パスコード	要設定	_____ または 設定しない	

(*1)：サーバーおよび全ての Visage Pass 顔認証端末に同じ設定を行う。

(*2)：同一ネットワークセグメント内で重複しないこと。

(*3)：強制解錠を行う場合、サーバー側に解錠 OP コードを設定する。

(*4)：顔登録動作を禁止しても、顔認証は行うことができます。

12.2.2. 親子 2 台連携の端末設定項目

以下の項目が親子 2 台での動作を行うために必要となりますので、設置作業を行う前に準備してください。

下表を用いて Visage Pass 顔認証端末 親機と子機の設定を用意します。

表 14 設定項目表（親子 2 台連携）

		親機設定	子機設定
設置コード	要設定	_____	_____
端末名 種類 番号 付加記号	要設定	端末名：_____ 種類： DOOR、ROOM、ENTRANCE 番号 0-999：[] 付加記号： なし、A、B、C、D	端末名：_____ 種類： DOOR、ROOM、ENTRANCE 番号 0-999：[] 付加記号： なし、A、B、C、D
サブネットマスク	要設定*1	16bit、24bit	16bit、24bit
自端末 I P アドレス	要設定	____.____.____.____	____.____.____.____
親機 I P アドレス	要設定*2		____.____.____.____
子機 I P アドレス	要設定*3	____.____.____.____	
管理者パスコード	要設定	_____	_____
登録用パスコード	要設定	_____	_____
認証パスコード	要設定	_____	_____
		または 設定しない	または 設定しない
2 要素パスコード	要設定	_____	_____
		または 設定しない	または 設定しない

(*1)：サーバーおよび全ての Visage Pass 顔認証端末に同じ設定を行う。

(*2)：親機の自端末 I P アドレスを子機に設定します。

(*3)：子機の自端末 I P アドレスを親機に設定します。

12.2.3. 単体動作の端末設定項目

以下の項目が単体動作を行うために必要となりますので、設置作業を行う前に準備してください。

下表を用いて、Visage Pass 顔認証端末の設定を用意します。

表 15 設定項目表 (単体動作)

		単体
設置コード	要設定	_____
端末名 種類 番号 付加記号	要設定	端末名：_____ 種類： DOOR、ROOM、ENTRANCE 番号 0-999：[] 付加記号： なし、A、B、C、D
サブネットマスク	要設定*1	16bit、24bit
自端末 IP アドレス	要設定*1	____.____.____.____
管理者パスワード	要設定	_____
登録用パスワード	要設定	_____
認証パスワード	要設定	_____ または 設定しない
2要素パスワード	要設定	_____ または 設定しない

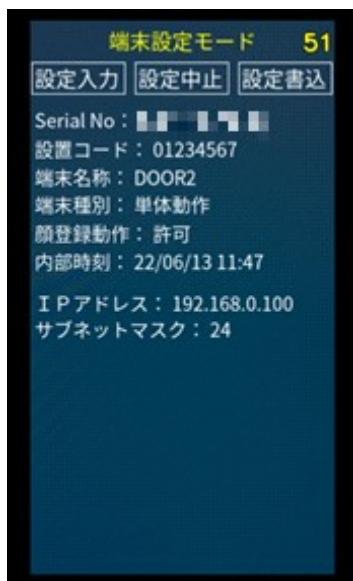
(*1)：設置場所のネットワーク環境に合わせて設定してください。

12.3. サーバー連携の端末設定

以下に、サーバー連携をおこなう場合の端末設定モードの操作手順を説明します。

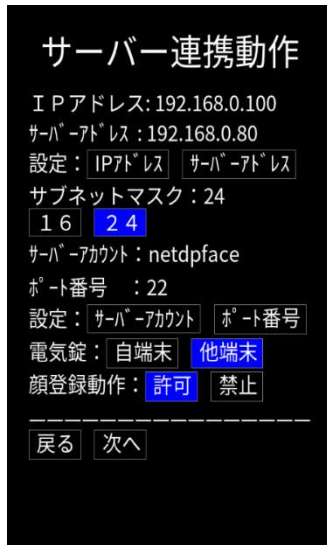
なお、以下の操作を行う前に、サーバー側の設定は済ませておいてください。

- | | |
|---|--|
| <p>(1) 設定前はアドレスが重複するので LAN 線はまだ接続しません。接続されている場合は外してください。</p> <p>(2) 電源を投入し、Visage Pass 顔認証端末を起動します。</p> <p>(3) QR 認識させ、端末設定モードに移動します。</p> <p>(4) 端末設定モードが起動したら 60 秒以内に「設定入力」をタップして入力を開始してください。</p> | <p>(5) 「設定入力」をタップし、設定値を入力します
→ 設置コード を設定します
→ 端末名を設定します
→ 端末動作 に「サーバー連携」を選択します
→ 時刻 を調整します
→ 「次へ」をタップします</p> |
|---|--|



(6) サーバー連携の設定を入力します

- 自端末の IP アドレス を設定します
- サブネットマスクを設定します
- サーバーアドレス を設定します
- サーバーの SSH アカウント名 を設定します
- サーバーの SSH プロトコルのポート番号を設定します
- 制御する電気錠を選択します
- 顔登録動作の可否を選択します
- 「次へ」をタップします



(7) 自端末の電気錠制御を利用する場合

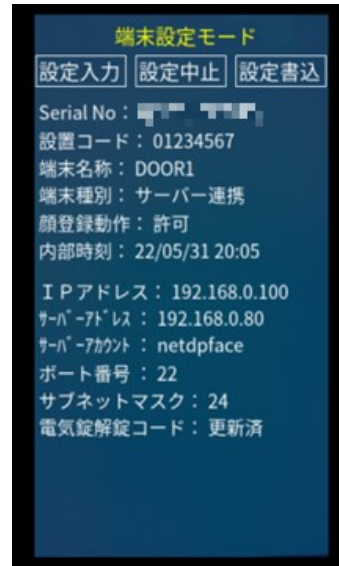
- Visage Pass Web サービスから解錠するための、IDコード、IOコードが表示されます。表示されている値を Visage Pass Web サービスに設定してください
- なお、OPコード更新 ボタンを押すことで新しい値に変更することができます
- 「先頭に戻る」をタップします



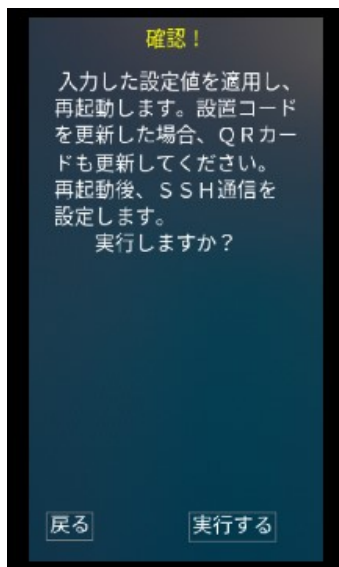
- (8) 他端末の電気錠制御を利用する場合
→ 電気錠を制御する Visage Pass 顔認証端末の IP
アドレスを設定してください
→ 「先頭に戻る」をタップします



- (9) 入力した設定値を確認します
→ 入力した設定値に誤りが無いか確認します
→ 誤りがないことを確認したら「設定書込」をタップします



- (10) 確認画面
→ 「実行する」をタップします



- (11) 再起動
→ 設定を反映し、再起動します



(12) SSH 通信設定の開始

→ 再起動してきたら SSH 通信の設定が始まります



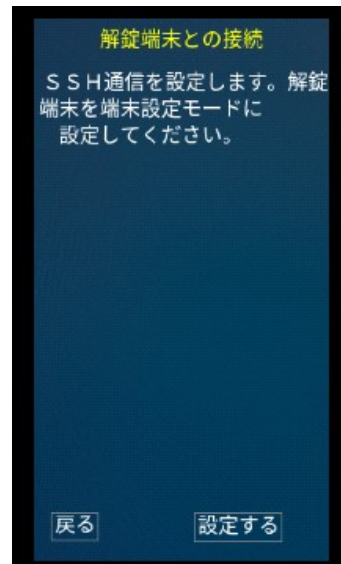
(13) 解錠端末との接続

→電気錠に他端末を選択した場合、解錠端末との通信設定を行います

→相手となる解錠端末も端末設定モードに設定します

→ LAN 線を端末に接続します。LAN 通信が安定するのを1分程度待ってから、「設定する」をタップします

→接続処理が完了したら、解錠端末については端末設定モードを終了させます。



(14) サーバー接続

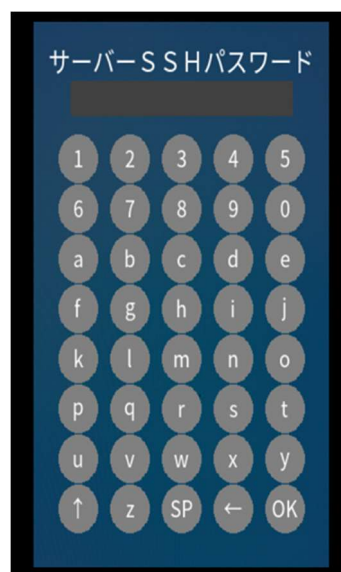
→ サーバーとの SSH 通信設定を行います

→ LAN 線を端末に接続します。LAN 通信が安定するのを1分程度待ってから、「設定する」をタップします



(15) サーバーSSH アカウントのパスワード

→サーバーの SSH 通信のアカウントにログインするためのパスワードの入力を求められるので、入力します



(16) アプリケーションの設定

→ アプリケーションの設定が存在する場合は、アプリケーション設定を初期化するか問合せされます。

→ 設置初回の場合は「初期化する」をタップします

→ なお、解錠端末の場合、アクセス元の SSH 通信設定をこのメニュー表示で待ち合わせておくと、端末設定モードに何度も入らなくて済みます。



(17) 再起動します

→設定がすべて完了すると再起動します。再起動後に顔認証アプリが起動することを確認してください。



(18) 端末、サーバーの再起動を確認します

→ 設定した端末、解錠端末、およびサーバーの再起動を行い、端末やサーバーが再起動した後も顔認証アプリが起動でき、顔認証にて解錠が可能なことを確認します。

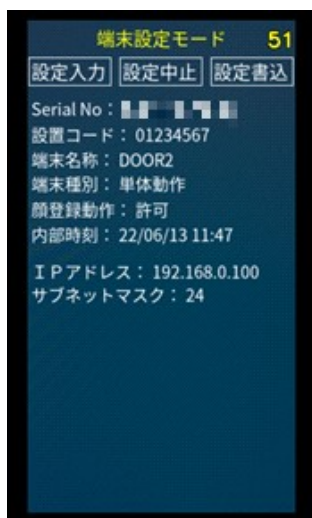
(19) QRコード確認、パスコード設定を行います

→顔認証アプリが起動できたらパスコードをデフォルトから変更するために設定します。

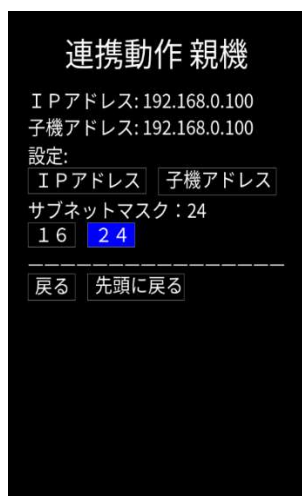
12.4. 親子 2 台連携 親機の端末設定

以下に、親子 2 台構成の端末設定モードの操作手順を説明します。

- (1) 設定前はアドレスが重複するので LAN 線はまだ接続しません。接続されている場合は外してください。
- (2) 電源を投入し、Visage Pass 顔認証端末を起動します。
- (3) QR 認識させ、端末設定モードに移動します。
- (4) 端末設定モードが起動したら 60 秒以内に「設定入力」をタップして入力を開始してください。
- (5) 「設定入力」をタップし、設定値を入力します
 - 設置コード を設定します
 - 端末名を設定します
 - 端末動作 に「親機」を選択します
 - 時刻 を調整します
 - 「次へ」をタップします

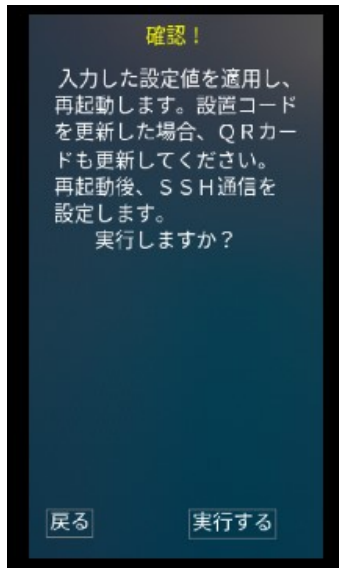


- (6) 親機の設定を入力します
 - 自端末の IP アドレス を設定します
 - サブネットマスクを設定します
 - 子機アドレス を設定します
 - 「先頭に戻る」をタップします
- (7) 入力した設定値を確認します
 - 入力した設定値に誤りが無いか確認します
 - 誤りがないことを確認したら「設定書込」をタップします



(8) 確認画面

→ 「実行する」をタップします



(9) 再起動の表示

→ 設定を反映し、再起動します



(10) SSH 通信設定の開始

→ 再起動してきたら SSH 通信の設定が始まります

→ LAN 線を端末に接続します。



(11) アプリケーションの設定

→ アプリケーションの設定が存在する場合は、アプリケーション設定を初期化するか問合せられます。

→ 設置初回の場合は「初期化する」をタップします

→なお、連携子機のSSH通信設定をこのメニュー表示で待ち合わせておくと、端末設定モードに何度も入らなくて済みます。



(1 2) 再起動します

→設定がすべて完了すると再起動します。再起動後に顔認証アプリが起動することを確認してください。



(1 3) 親子端末の再起動を確認します

→ 親子端末を再起動した後も顔認証アプリが起動でき、顔認証にて解錠が可能なことを確認します。

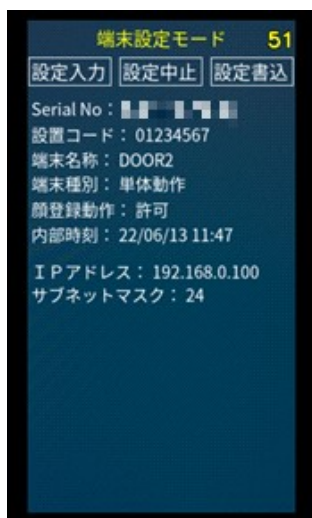
(1 4) QRコード確認、パスコード設定を行います

→顔認証アプリが起動できたらパスコードをデフォルトから変更するために設定します。

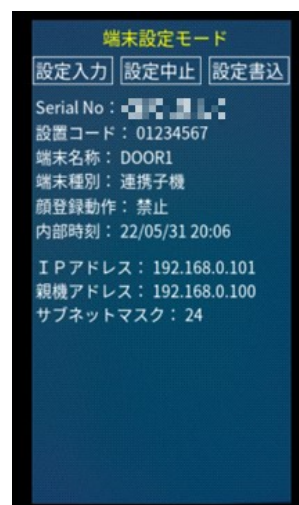
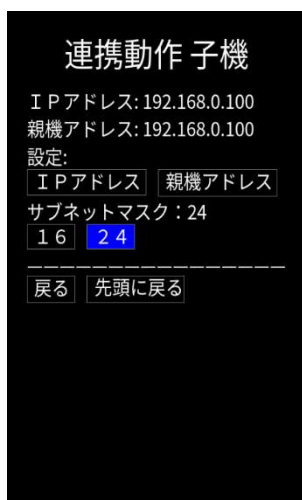
12.5. 親子 2 台連携 子機の端末設定

以下に、親子 2 台構成の端末設定モードの操作手順を説明します。

- (1) **設定前はアドレスが重複するので LAN 線はまだ接続しません。接続されている場合は外してください。**
- (2) 電源を投入し、Visage Pass 顔認証端末を起動します。
- (3) QR 認識させ、端末設定モードに移動します。
- (4) 端末設定モードが起動したら 60 秒以内に「設定入力」をタップして入力を開始してください。
- (5) 「設定入力」をタップし、設定値を入力します
 - 設置コード を設定します
 - 端末名を設定します
 - 端末動作 に「子機」を選択します
 - 時刻 を調整します
 - 「次へ」をタップします

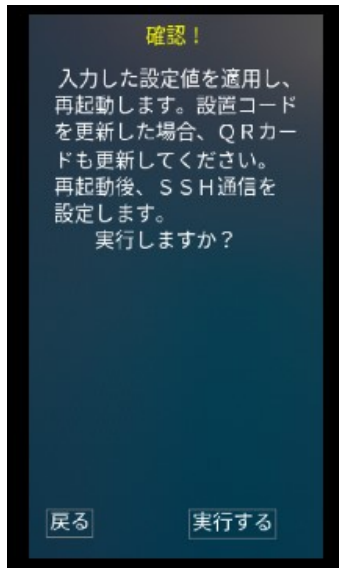


- (6) 親機の設定を入力します
 - 自端末の IP アドレス を設定します
 - サブネットマスクを設定します
 - 子機アドレス を設定します
 - 「先頭に戻る」をタップします
- (7) 入力した設定値を確認します
 - 入力した設定値に誤りが無いか確認します
 - 誤りがないことを確認したら「設定書込」をタップします



(8) 確認画面

→ 「実行する」をタップします



(9) 再起動の表示

→ 設定を反映し、再起動します



(10) SSH 通信設定の開始

→ 再起動してきたら SSH 通信の設定が始まります



(11) 連携親機との接続

→ 相手となる親機端末も端末設定モードに設定します

→ LAN 線を端末に接続します。LAN 通信が安定するのを1分程度待つてから、「設定する」をタップします

→ 接続処理が完了したら、親機端末については端末設定モードを終了させます。



(12) アプリケーションの設定

→ アプリケーションの設定が存在する場合は、アプリケーション設定を初期化するか問合せされます。

→ 設置初回の場合は「初期化する」をタップします



(13) 再起動します

→設定がすべて完了すると再起動します。再起動後に顔認証アプリが起動することを確認してください。



(14) 親子端末の再起動を確認します

→ 親子端末を再起動した後も顔認証アプリが起動でき、顔認証にて解錠が可能なことを確認します。

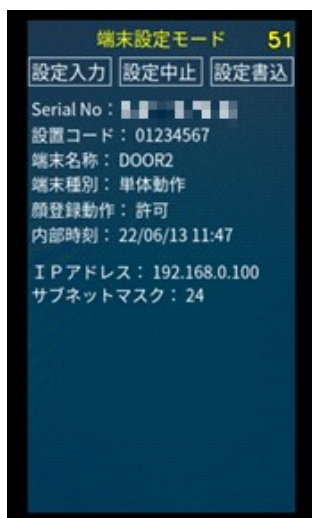
(15) QRコード確認、パスコード設定を行います

→顔認証アプリが起動できたらパスコードをデフォルトから変更するために設定します。

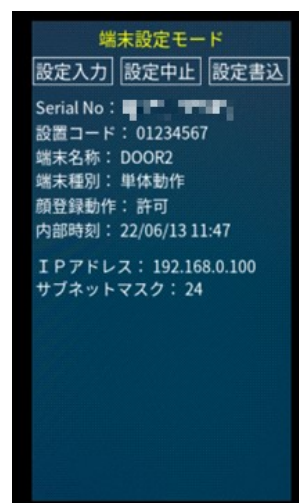
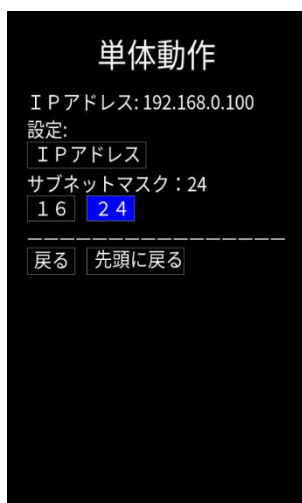
12.6. 単体動作の端末設定

以下に、親子 2 台構成の端末設定モードの操作手順を説明します。

- (1) **設定前はアドレスが重複するので LAN 線はまだ接続しません。接続されている場合は外してください。**
- (2) 電源を投入し、Visage Pass 顔認証端末を起動します。
- (3) QR 認識させ、端末設定モードに移動します。
- (4) 端末設定モードが起動したら 60 秒以内に「設定入力」をタップして入力を開始してください。
- (5) 「設定入力」をタップし、設定値を入力します
 → 設置コード を設定します
 → 端末名を設定します
 → 端末動作 に「単体」を選択します
 → 時刻 を調整します
 → 「次へ」をタップします

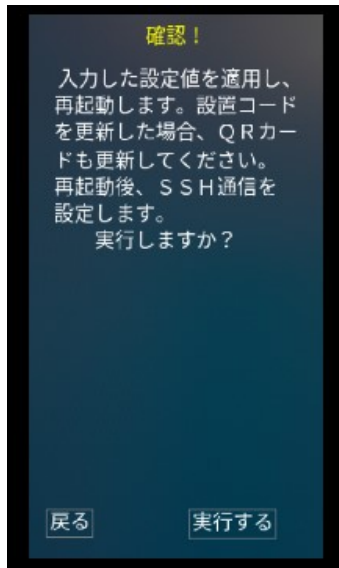


- (6) 親機の設定を入力します
 → 自端末の IP アドレス を設定します
 → サブネットマスクを設定します
 → 「先頭に戻る」をタップします
- (7) 入力した設定値を確認します
 → 入力した設定値に誤りが無いか確認します
 → 誤りがないことを確認したら「設定書込」をタップします



(8) 確認画面

→ 「実行する」をタップします



(9) 再起動の表示

→ 設定を反映し、再起動します



(10) SSH 通信設定の開始

→ 再起動してきたら SSH 通信の設定が始まります

→ LAN 線を端末に接続します。



(11) アプリケーションの設定

→ アプリケーションの設定が存在する場合は、アプリケーション設定を初期化するか問合せられます。

→ 設置初回の場合は「初期化する」をタップします

→ なお、連携子機の SSH 通信設定をこのメニュー表示で待ち合わせておくと、端末設定モードに何度も入らなくて済みます。



(12) 再起動します

→設定がすべて完了すると再起動します。再起動後に顔認証アプリが起動することを確認してください。



(13) 親子端末の再起動を確認します

→ 親子端末を再起動した後も顔認証アプリが起動でき、顔認証にて解錠が可能なことを確認します。

(14) QRコード確認、パスコード設定を行います

→顔認証アプリが起動できたらパスコードをデフォルトから変更するために設定します。

製品に関するお問い合わせ：

株式会社デジタルピア

TEL:089-993-5050